令和８年度全国学力・学習状況調査結果の考察

苫　小　牧　市

公　表

令和８年８月２１日

苫小牧市教育委員会　教育部　指導室

目　次

○令和８年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果

・調査の概要・・・

令和８年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果

令和８年８月２０日　苫小牧市教育委員会

・平均正答率については、四捨五入した整数値で公表しております。
・平成３０年度まで国語と算数・数学は、A 問題（主として知識に関する問題）、B 問題（主として活用に関する問題）に分かれて実施されていましたが、平成３１年度調査より知識・活用を一体的に問う調査問題と変更されました。
・令和２年度全国学力・学習状況調査は新型コロナウイルス感染症に係る影響のため中止となり、児童生徒質問紙のみ実施しました。令和２年度の数値は参考値となります。
・中学校英語科は CBT（コンピューターでのテスト方式）での実施となり、IRT（項目反応理論）により結果が提示されることとなりました。

※IRT とは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

調査の概要

１　実施日
令和８年４月２３日（木）

２　調査対象
（１）小学校第６学年
（２）中学校第３学年

３　対象学校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
苫小牧市	２３	１，３６５	１５	１，４２９

※小学校数には、義務教育学校前期課程、中学校数には、義務教育学校後期課程を含む。

４　調査事項
（１）教科に関する調査
小学校…国語、算数の２教科　中学校…国語、数学、英語の３教科
（２）生活習慣、学習環境等に関する質問調査
①児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
②学校に対する調査（指導方法、教育条件の整備等）

苫小牧市の小・中学校における全体的な傾向

（学力に関すること）
★小学校国語の平均正答率は全国平均より２％程度下回っています。
★小学校算数の平均正答率は全国平均より５％程度下回っています。
★中学校国語の平均正答率は全国平均より４％程度下回っています。
★中学校数学の平均正答率は全国平均より５％程度下回っています。
★中学校英語の平均 IRT スコアは全国平均より４０程度下回っています。

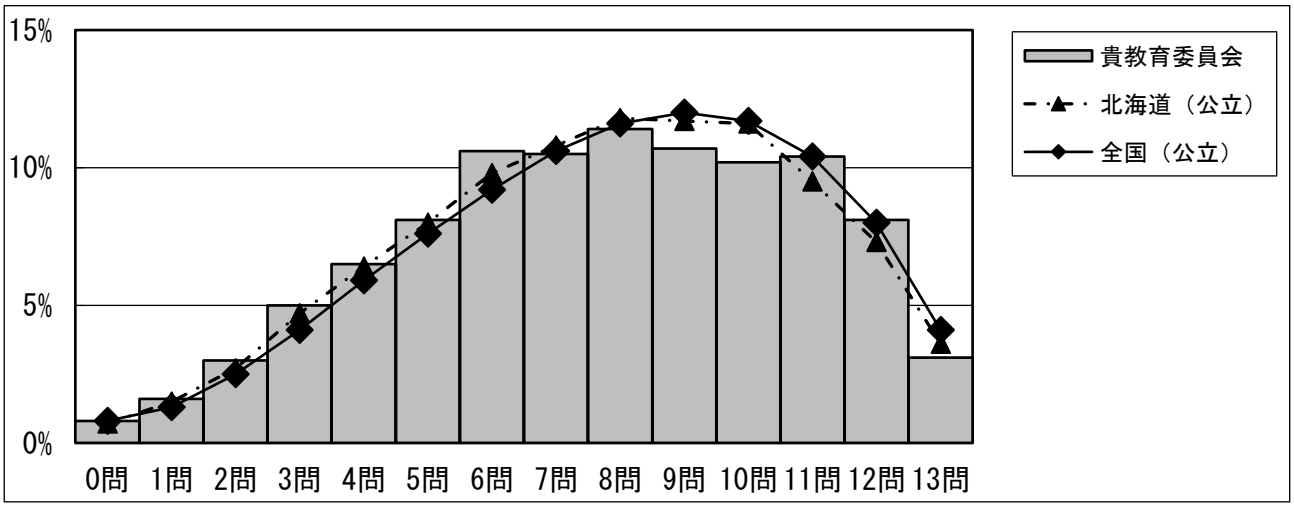
（学校生活に関すること）
☆児童・生徒質問調査から、小・中学校ともに「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的に回答した割合が全国平均を上回るとともに、その割合は９割を超えています。

（いじめに関すること）
☆児童・生徒質問調査から、小・中学校ともに「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と肯定的に回答した割合が、全国平均を上回るとともに、その割合は９割を超えています。

調査結果概況　［国語］

苫小牧市教育委員会―児童

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



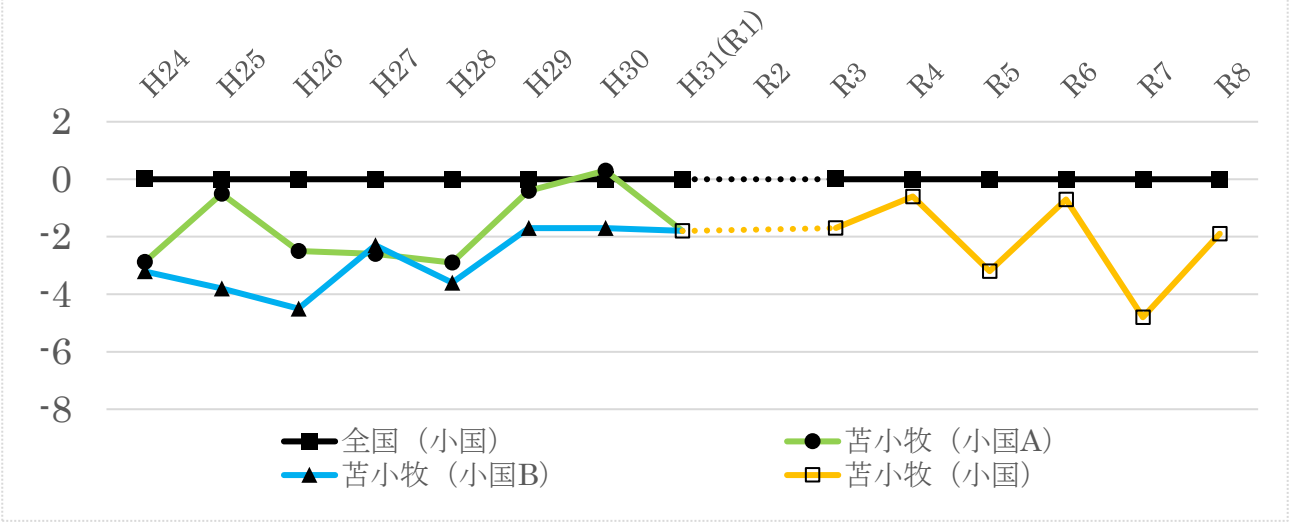
小学校　国語科に関する調査結果

	平均正答数（問／出題数）	平均正答率（％）
苫小牧市	７．７／１３	５９
北 海 道	７．８／１３	６０
全　　国	７．９／１３	６０．９

平均正答数
出題数に対する正答数の平均値

平均正答率
問題数を１００％とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ　（全国を０としたときのグラフ）



分析と考察

○短答式のすべての設問において、正答率が全国平均を上回っており、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるとうかがえます。

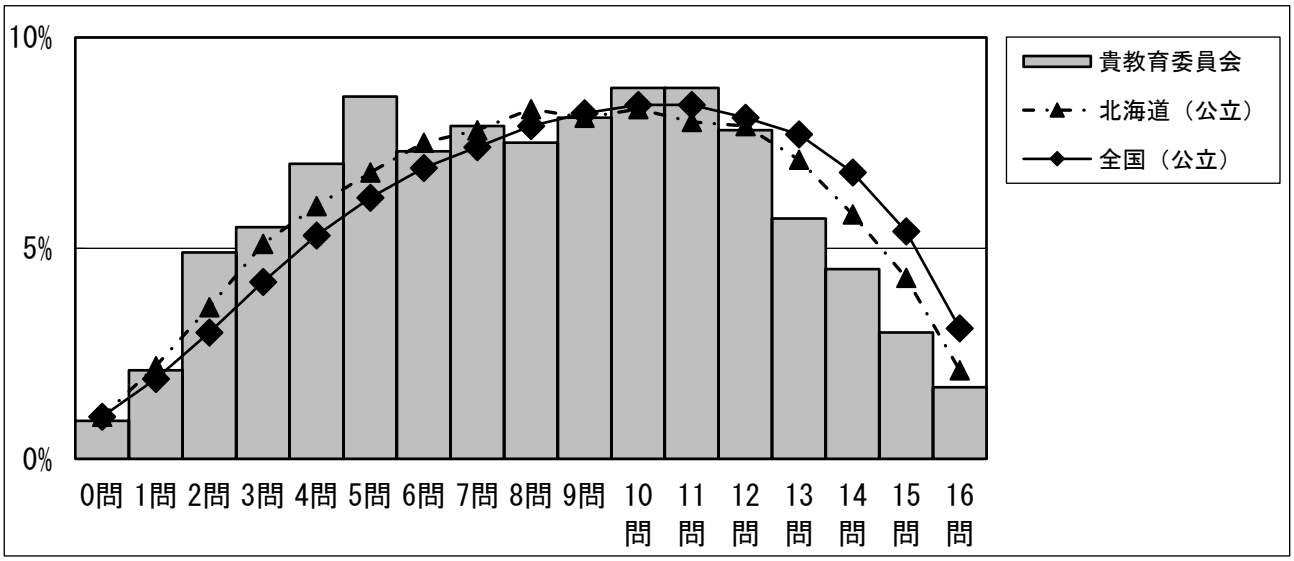
○知識及び技能に関しては、概ね全国平均と同等の結果であるとともに、ほぼ全ての設問において無回答率が全国平均を下回っていることから、国語科における基礎的な学習内容の定着と学習意欲の高まりがうかがえます。

●「書くこと」では、筋道の通った文章となるように全体の構成や展開を考えることに課題が見られ、自分の考えを表現する力を育成する指導の充実が求められます。

調査結果概況　［算数］

苫小牧市教育委員会―児童

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

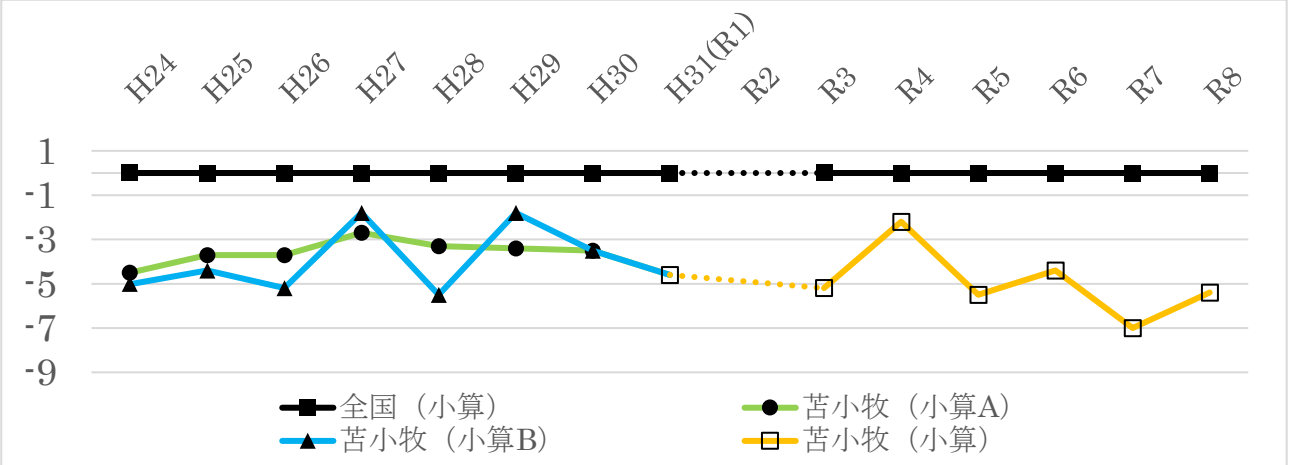


小学校　算数科に関する調査結果

	平均正答数（問/出題数）	平均正答率（%）
苫小牧市	８．２／１６	５１
北 海 道	８．６／１６	５４
全　　国	９．０／１６	５６．４

平均正答数
出題数に対する正答数の平均値
平均正答率
問題数を１００％とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ　（全国を０としたときのグラフ）



分析と考察

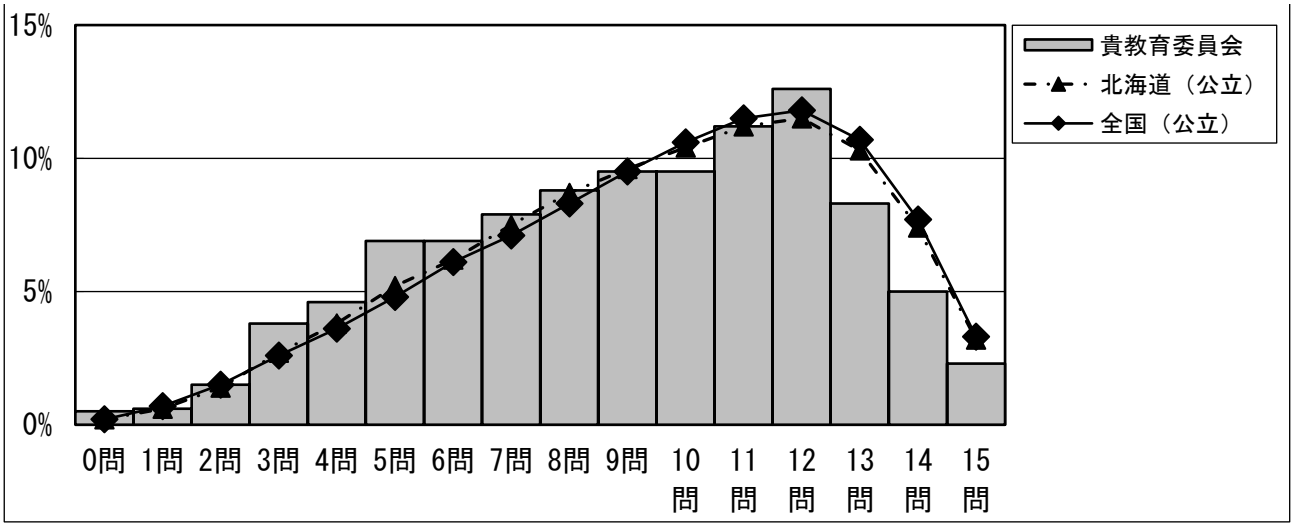
○知識及び技能に関しては、条件に合わせて小数をつくることや、帯グラフの特徴と用い方を理解することについて、概ね全国平均と同等の結果となりました。いずれも７割を超える正答率であり、基礎的な学習内容の定着がうかがえます。

●すべての領域において、正答率が全国平均を下回っており、中でも、「図形」の領域に関して課題が見られます。今後の授業改善を通して、図形の概念や性質について理解を深めるとともに、日常生活や問題解決の場面で活用する力を育成する指導の充実が求められます。

調査結果概況　［国語］

苫小牧市教育委員会―生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

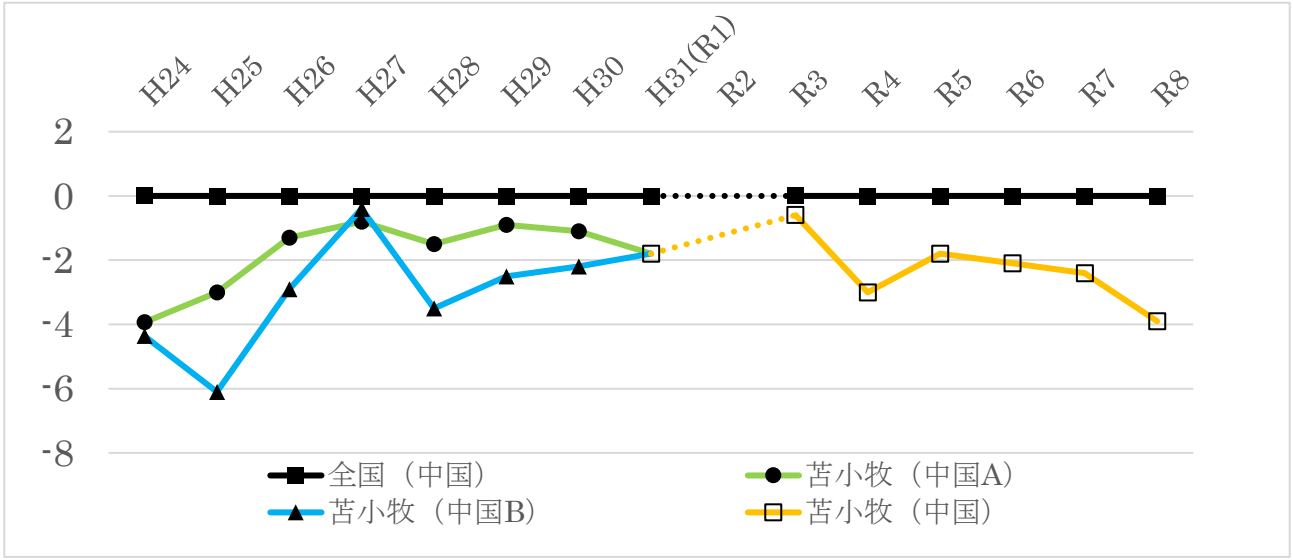


中学校　国語科に関する調査結果

	平均正答数（問/出題数）	平均正答率（%）
苫小牧市	９．０／１５	６０
北 海 道	９．５／１５	６３
全　　国	９．６／１５	６３．９

平均正答数
出題数に対する正答数の平均値
平均正答率
問題数を１００％とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ　（全国を０としたときのグラフ）



分析と考察

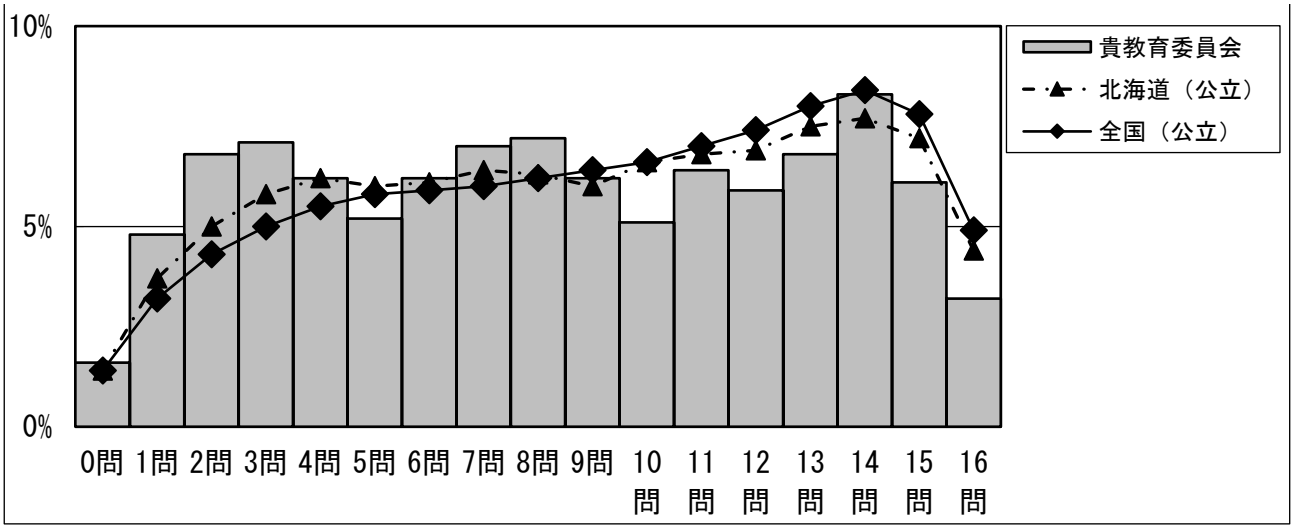
○「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、助動詞の働きや単語の活用について正答率が８割を超えており、基礎的な学習内容の定着がうかがえます。

●すべての設問において、正答率が全国平均を下回りました。特に、情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことや、互いの考えを尊重しながら話し合い結論を導くために考えをまとめることに課題が見られます。各単元において言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力等を高めていくことが求められます。

調査結果概況　［数学］

苫小牧市教育委員会―生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

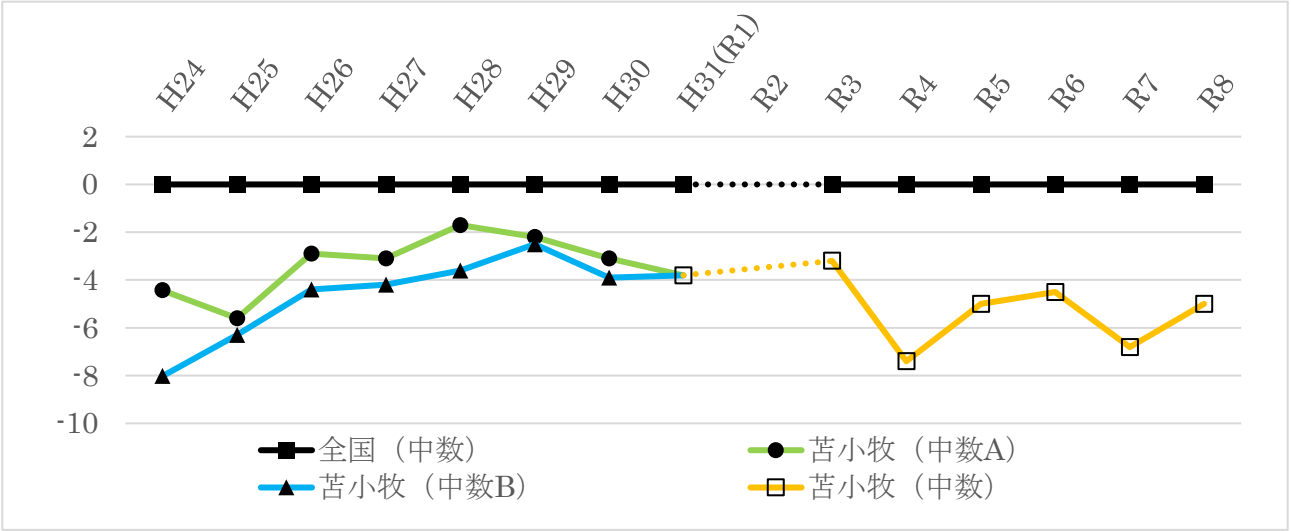


中学校　数学科に関する調査結果

	平均正答数（問／出題数）	平均正答率（%）
苫小牧市	８．３／１６	５２
北 海 道	８．８／１６	５５
全　　国	９．１／１６	５７

平均正答数
出題数に対する正答数の平均値
平均正答率
問題数を１００％とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ　（全国を０としたときのグラフ）



分析と考察

●すべての問題について、平均正答率が全国平均を下回っています。数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して学びを深めていく授業づくりを充実させ、数学的に考える資質・能力を育成していくことが求められます。

●「記述式」の問題では、正答率が３～４割であり、無解答率も４～５割と高くなっています。特に、データの傾向を的確に捉えて判断の理由を説明することや、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られます。

調査結果概況　［英語科］

苫小牧市教育委員会―生徒

中学校　英語科に関する調査結果

技能別平均正答数

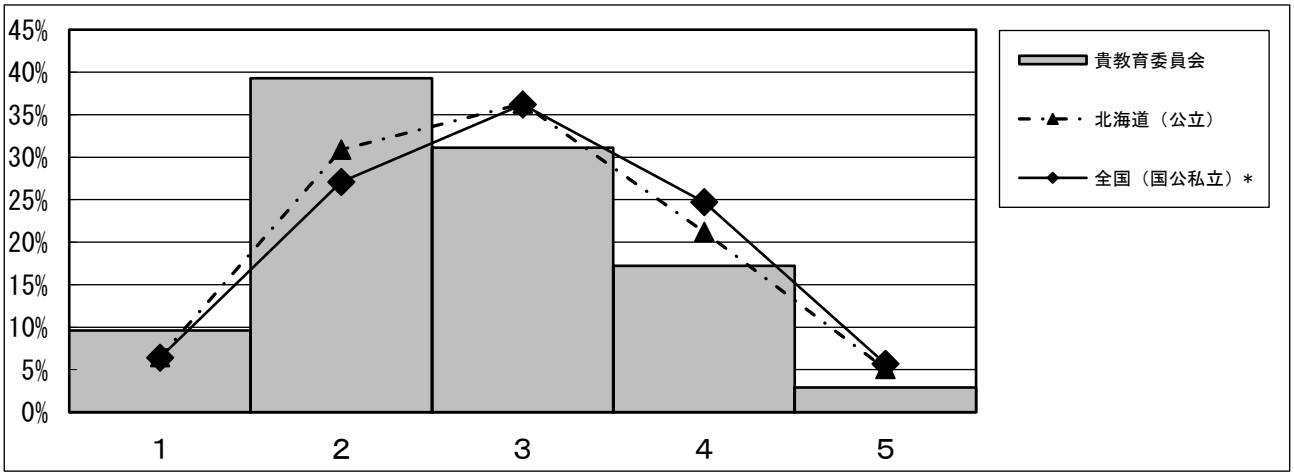
	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
苫小牧市	１．１／２	２／５	０．６／２
北海道	１．２／２	２．４／５	０．６／２
全国	１．２／２	２．６／５	０．７／２

IRT スコア集計値

	平均 IRT スコア
苫小牧市	４６５
北海道	４９０
全国	４９９

【IRT スコアとは】
IRT に基づき各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、５００を基準にした得点で表すもの。難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：割合）



【IRT バンドとは】
IRT スコアを１～５の５段階で区切ったもの。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなる。IRT バンドを IRT スコアに換算すると、およそ下表のような対応関係となる。

IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア範囲	～３５０	３５０～４５０	４５０～５５０	５５０～６５０	６５０～

分析と考察

○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、「聞くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうか問う問題では、正答率が全国平均を上回っています。

●平均 IRT スコアは全国平均よりも３０程度低い結果となっており、IRT バンド３～５の分布割合が全国を下回っていることがうかがえます。

●知識及び技能に関しては、平均正答率が全国平均を大きく下回る問題が見られます。特に、音声や語彙などの知識を「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用することに課題が見られます。

令和８年度全国学力・学習状況調査児童質問（小学6年児童）調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

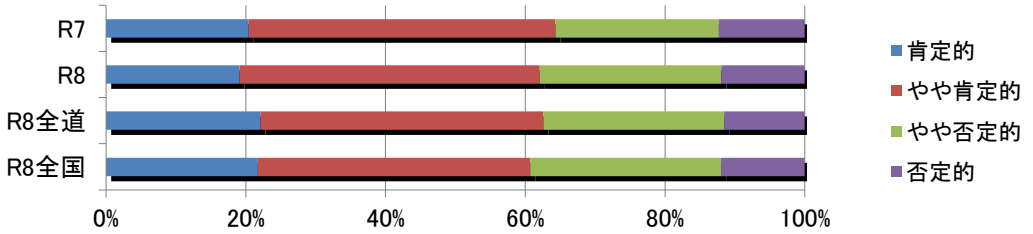
小学6年児童

①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

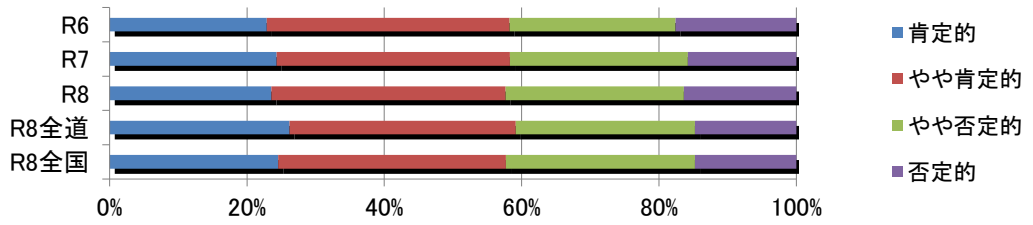
学習に対する興味・関心等（国語）

【考察】 ほぼ全ての設問において、肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。また、「国語の授業の内容はよく分かる」や「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と肯定的に回答した児童の割合はいずれも８割を超えている。これらの結果から、国語科において児童の興味関心を引き出したり、必要感を抱かせたりしながら、主体的に学びに向かう手立てが講じられていることがうかがえる。

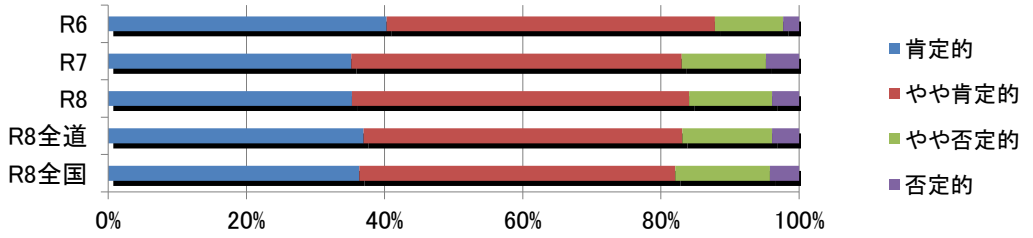
52 国語の勉強は得意。



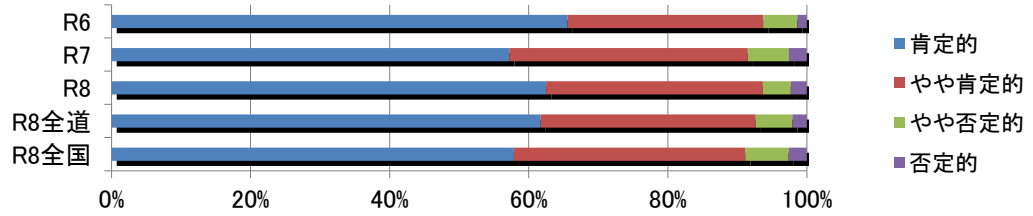
53 国語の勉強は好き。



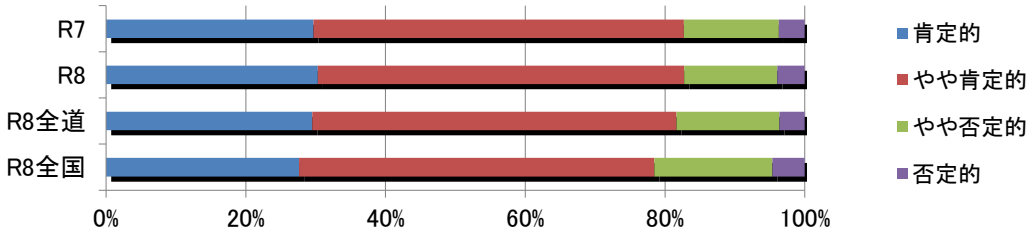
54 国語の授業の内容はよく分かる。



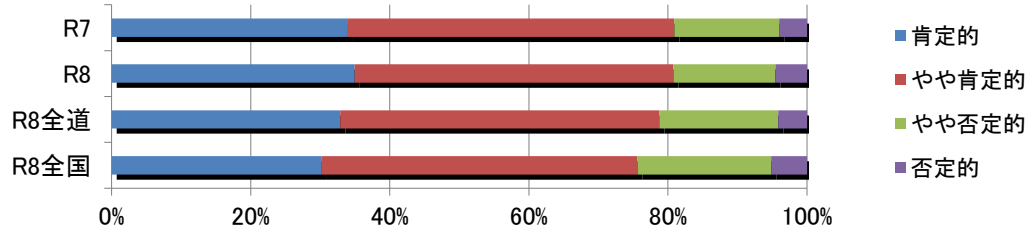
55 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



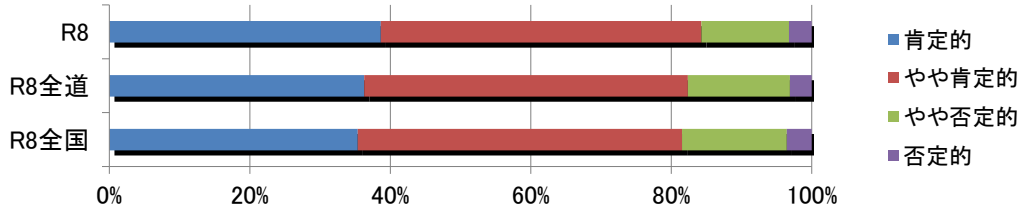
56 国語の授業で、先生は自分の良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる。



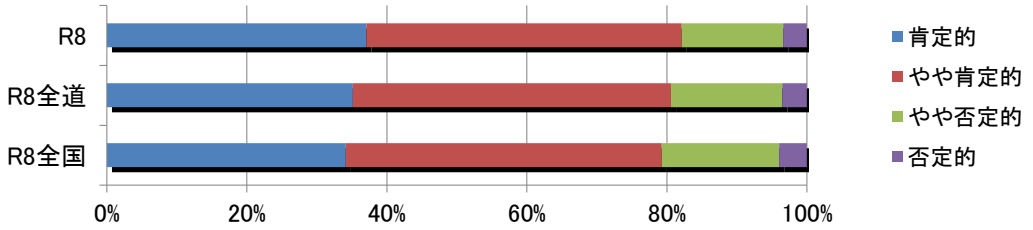
57 国語の授業で、先生は、自分の学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる。



58 国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている。（新設問）



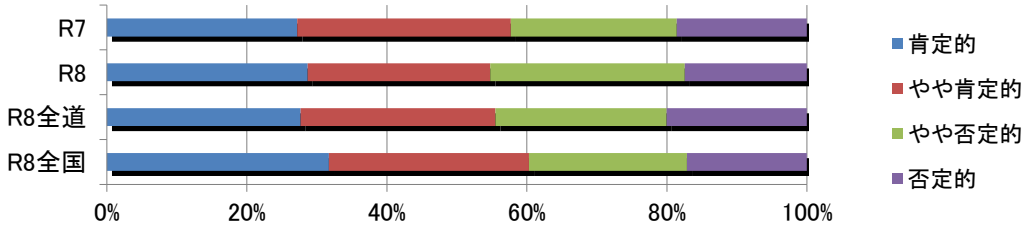
59 国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（新設問）



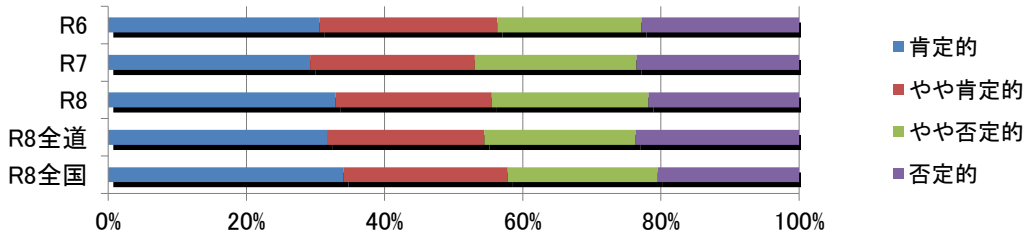
学習に対する興味・関心等（算数）

【考察】 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」の設問に対して肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均を上回っていることから、児童が粘り強く課題解決に向かおうとしたり、日常生活で活用しようとしたり取り組んでいることがうかがえる。また、「算数の勉強は好き」「算数の授業の内容はよく分かる」に肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均と同程度になってきていることから、引き続き、基礎・基本の内容の定着を図り、児童が主体的に学ぶことができるよう授業改善を継続していく必要がある。

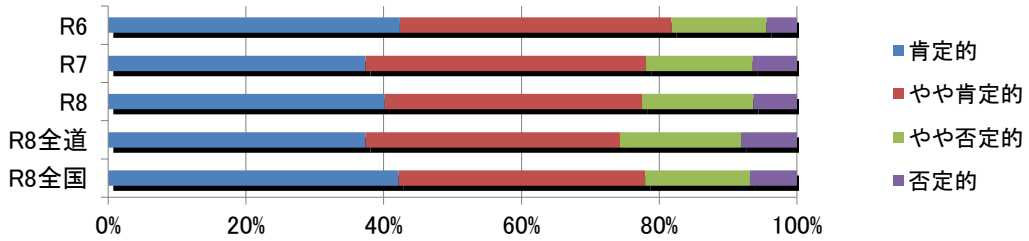
60 算数の勉強は得意。



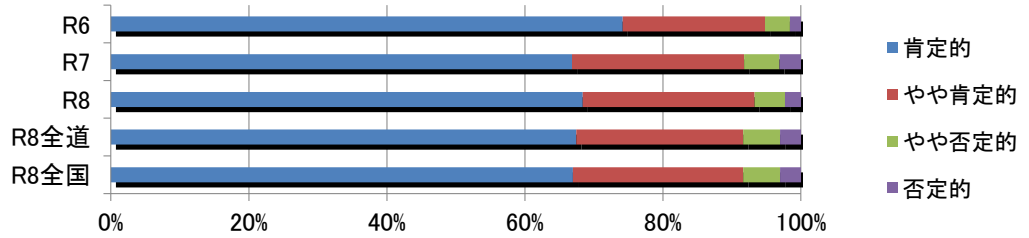
61 算数の勉強は好き。



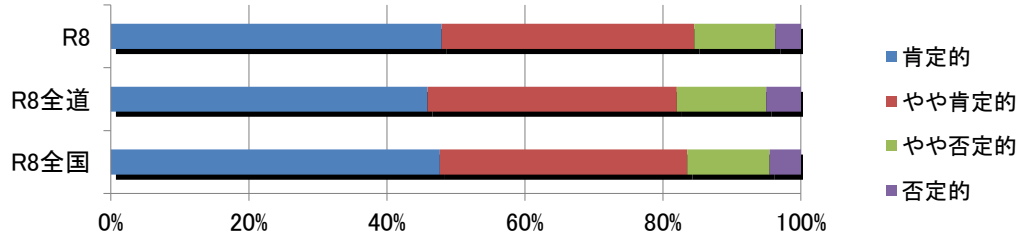
62 算数の授業の内容はよく分かる。



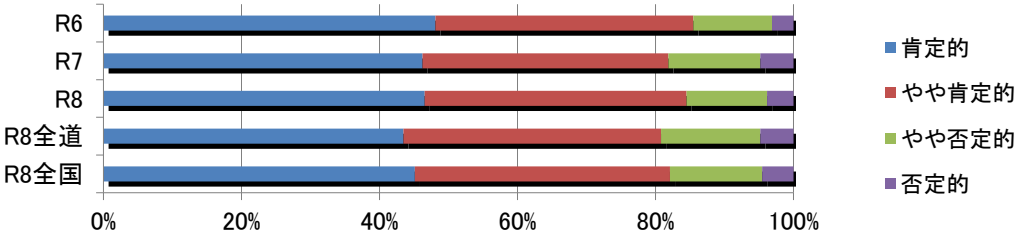
63 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



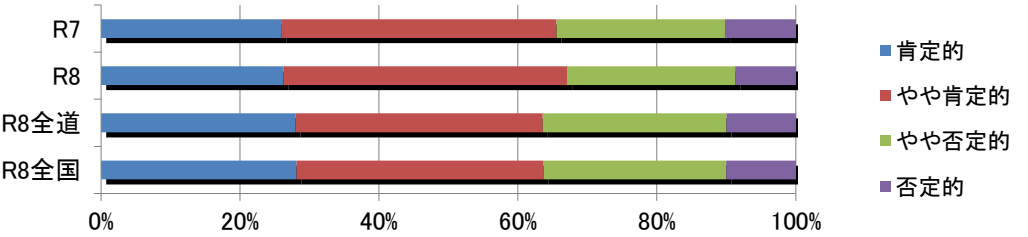
64 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている。（新設問）



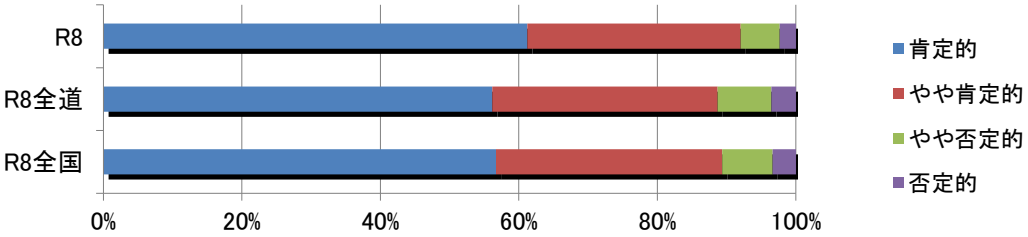
65 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。



66 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。



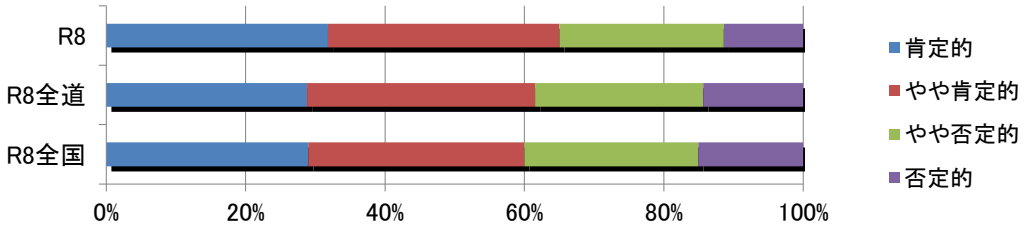
67 図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思う。（新設問）



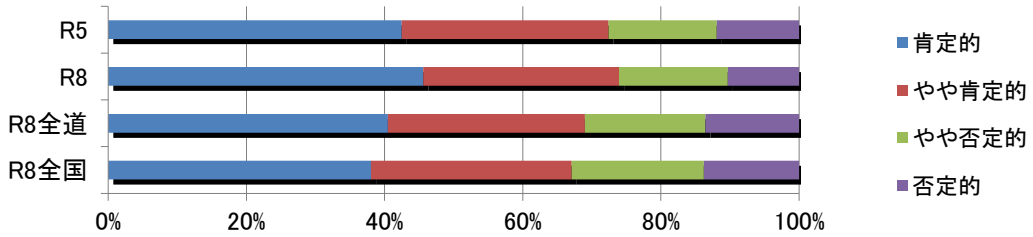
学習に対する興味・関心等（英語）

【考察】 「英語の勉強は得意」「英語の勉強は好き」に対して肯定的に回答した児童の割合が全国平均を上回っていることから、各学校における外国語科の授業改善やALTの効果的な活用等が児童の学習への意欲につながっていることがうかがえる。一方で、「これまで、学校の授業以外で英語を使う機会があった」や「家庭学習の課題（宿題）として、ICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしているか」では、肯定的に回答した割合が低い傾向にあることから、生活場面において英語をより身近に感じられるような工夫が必要であると考えられる。

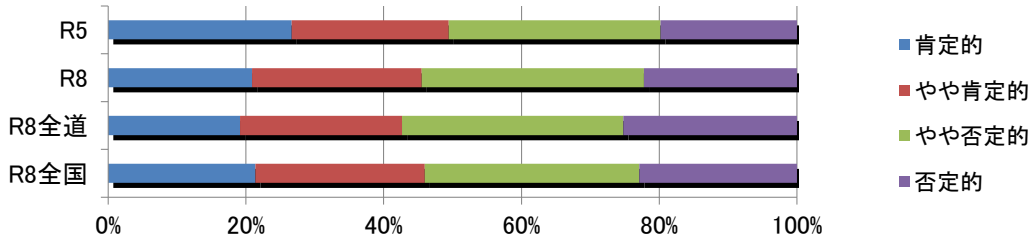
69 英語の勉強は得意。（新設問）



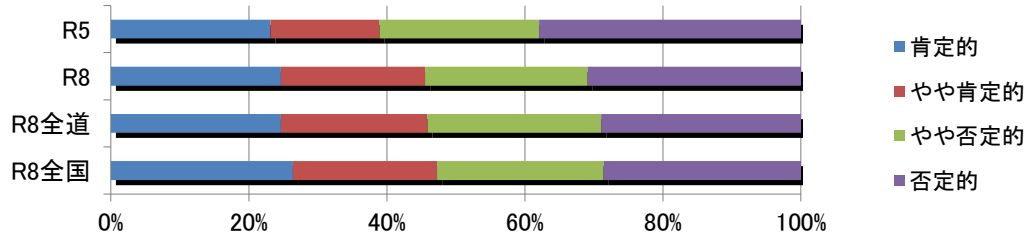
70 英語の勉強は好き。



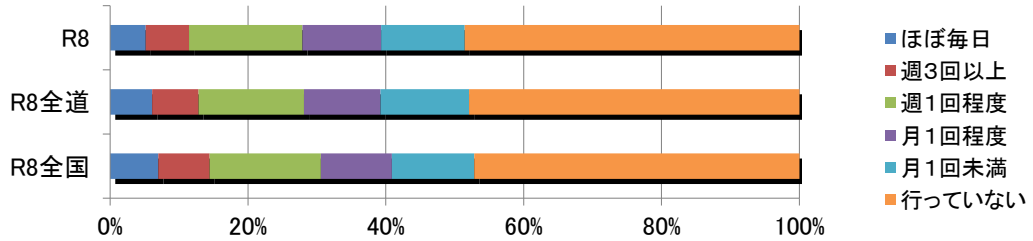
71 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい。



72 これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）。



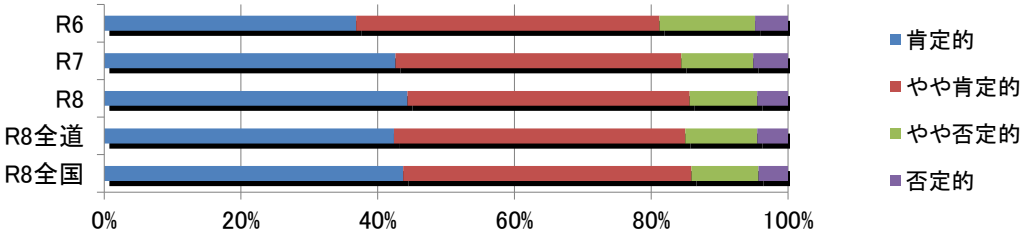
73 家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしているか。



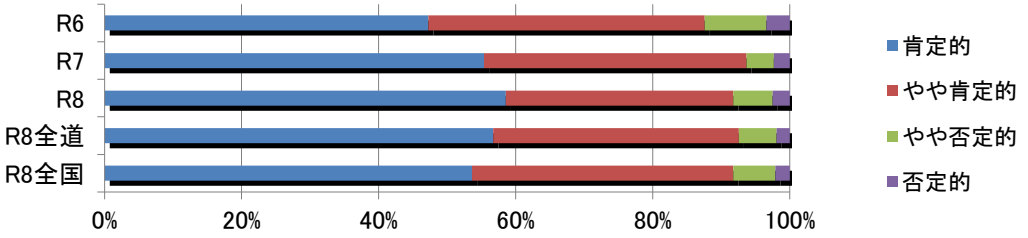
規範意識・自己有用感

【考察】 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合が全国平均を上回っているとともに、令和６年度より増加傾向にある。道徳教育の充実を図ることや、「苫小牧市いじめ防止基本方針」等に基づいた、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組を継続的に進めていることがこの結果につながっていることがうかがえる。また、「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」に対しても、肯定的な回答が９割を超えていることから、規範意識の高さや本市における豊かな心の育成に向けた取組が充実していることがうかがえる。

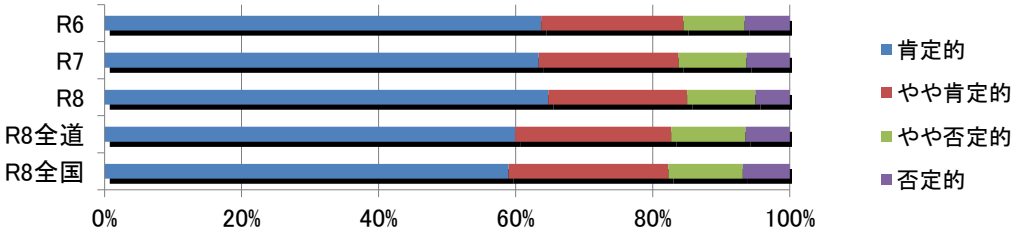
8 自分には、よいところがあると思う。



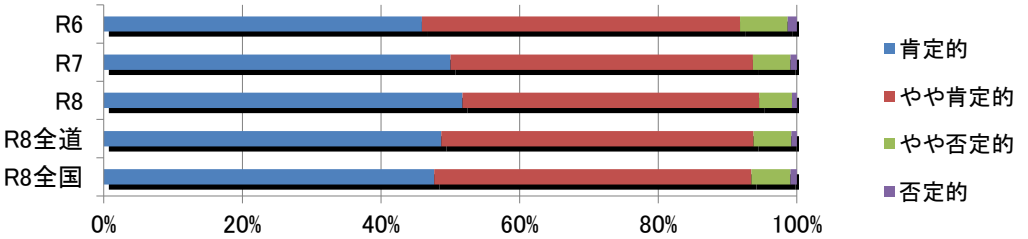
9 先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。



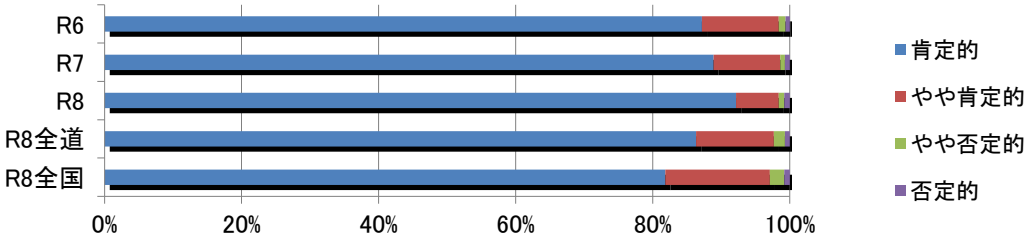
10 将来の夢や目標を持っている。



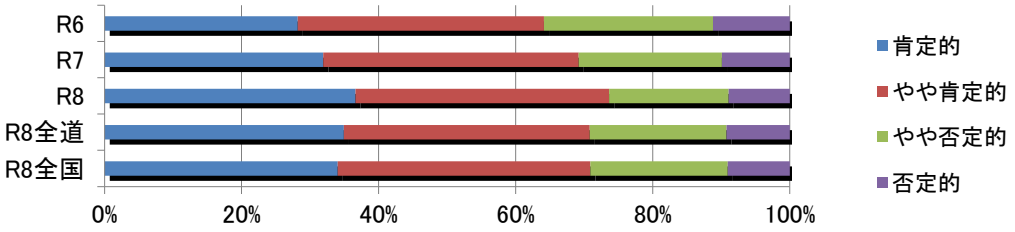
11 人が困っているときは、進んで助けている。



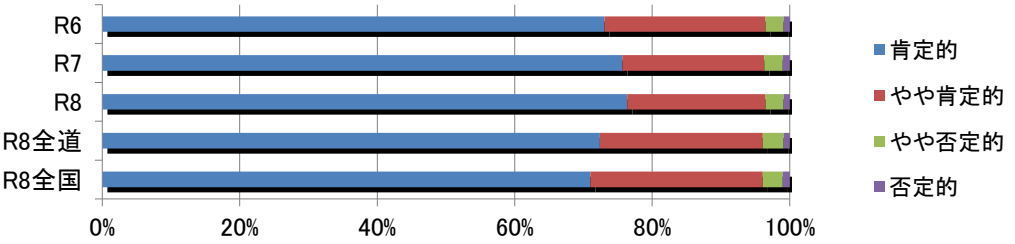
12 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



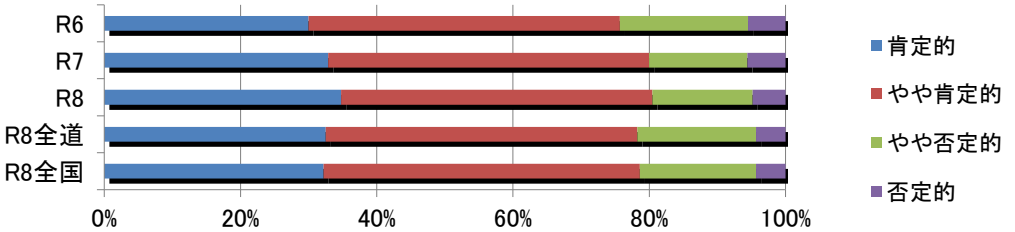
13 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



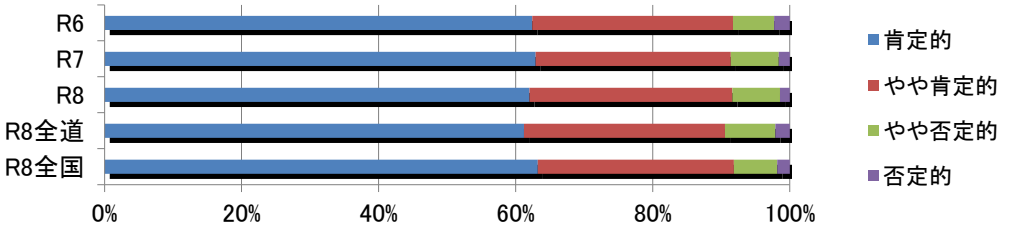
14 人の役に立つ人間になりたいと思う。



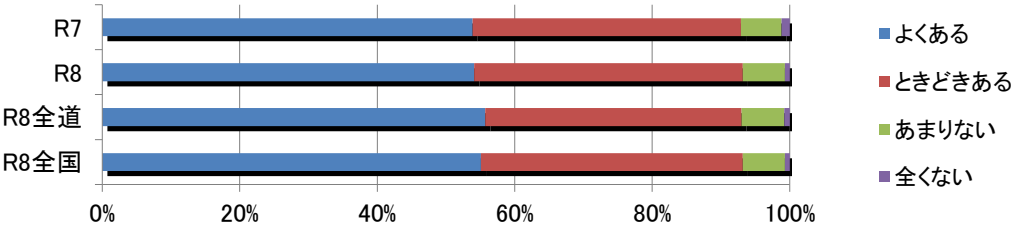
16 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。



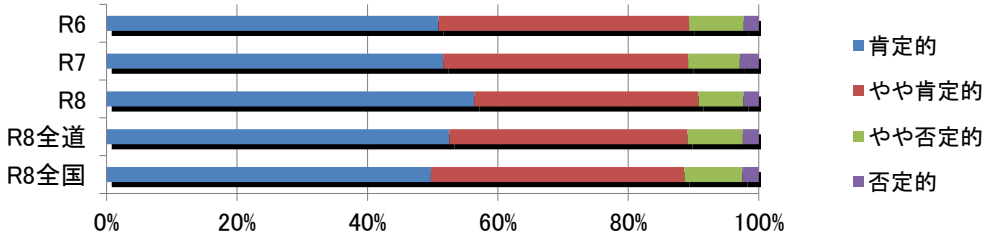
17 友達関係に満足している。



21 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。



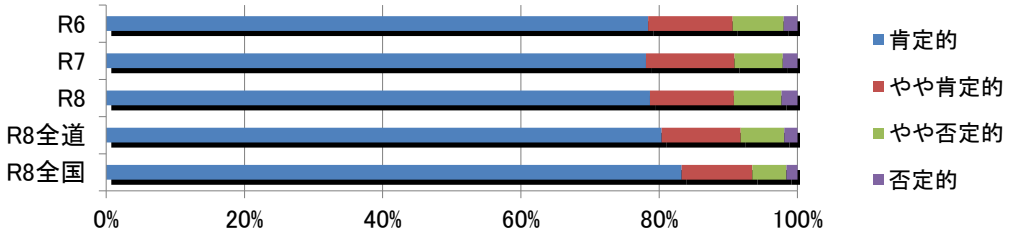
45 先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれる。



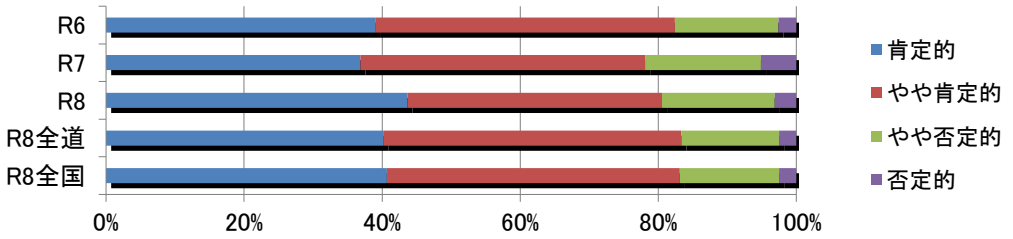
生活習慣・学習習慣・地域や社会への関心

【考察】 「普段（月～金）、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間」「休み（土日等）の日の、1日当たりの学習時間」は令和６年度より減少傾向にある。「新とまこまい学びの３カ条」に基づいて、自分の興味や関心から学ぶ内容や方法を自分で決めるとともに、学習の成果や方法を振り返る学習習慣を身に付けることで、学びの質を高め自律的な学びの力の向上を図っていくことが求められる。

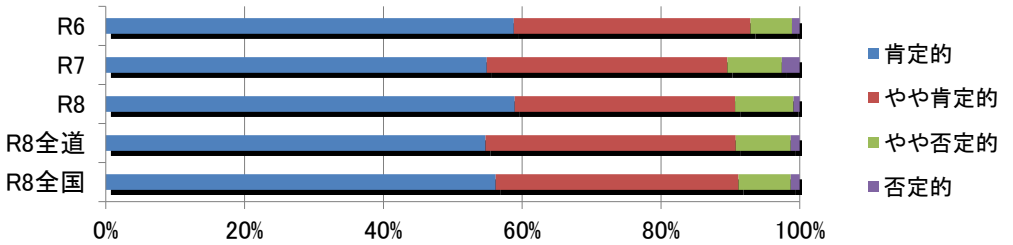
1 朝食を毎日食べている。



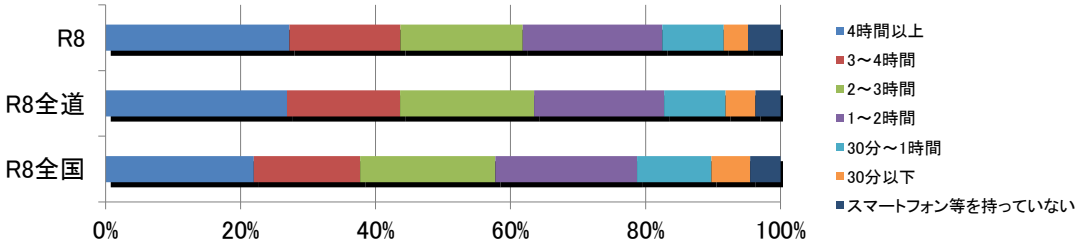
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



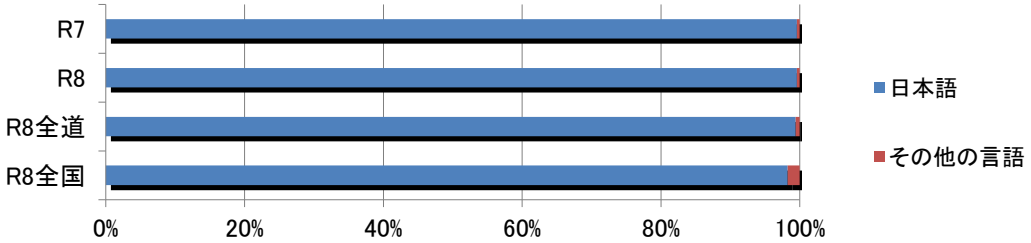
3 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



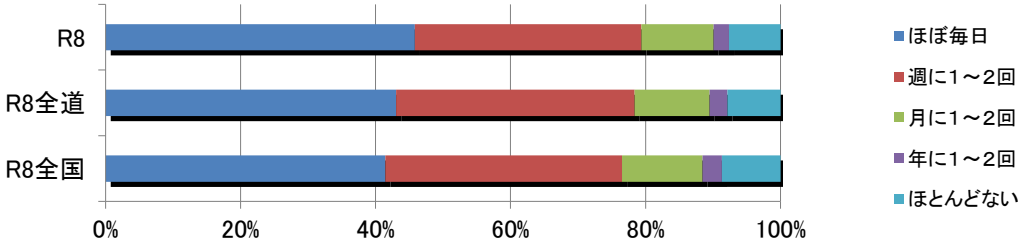
4 普段（月～金）、1日あたりどれくらい時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをするか。（新設問）



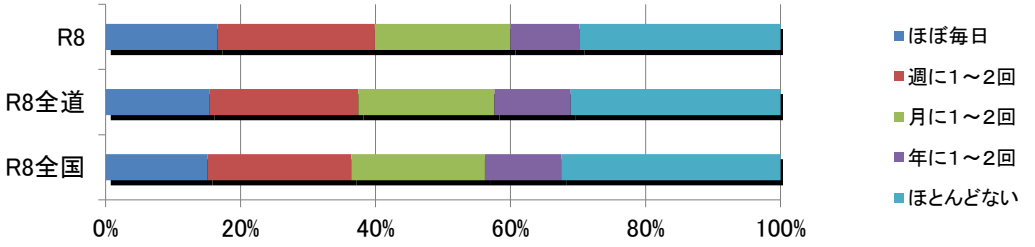
5 家では主に何語を話しているか。



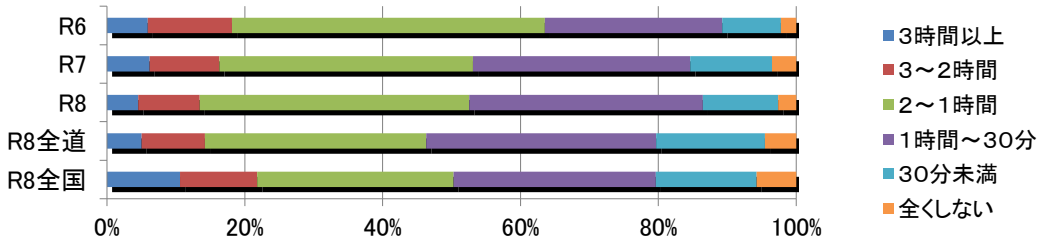
6 学校の勉強のことについて、親や家族とどれくらい話をするか。（新設問）



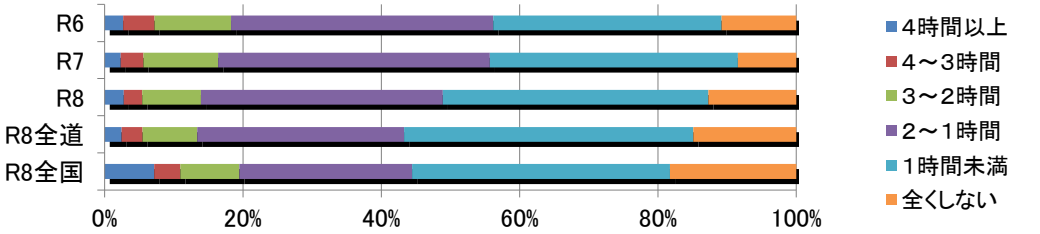
7 学校での悩みについて、親や家族とどれくらい話をするか。（新設問）



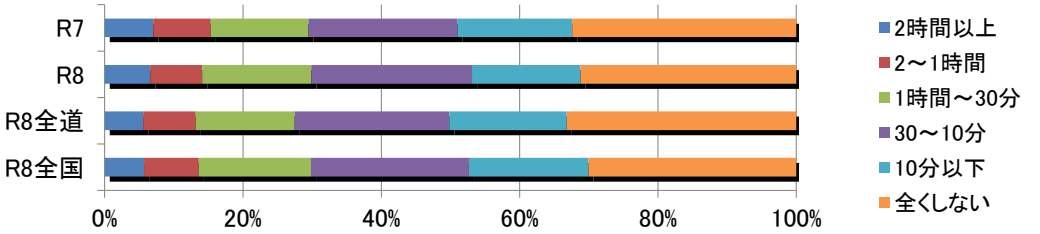
23 普段(月～金）、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



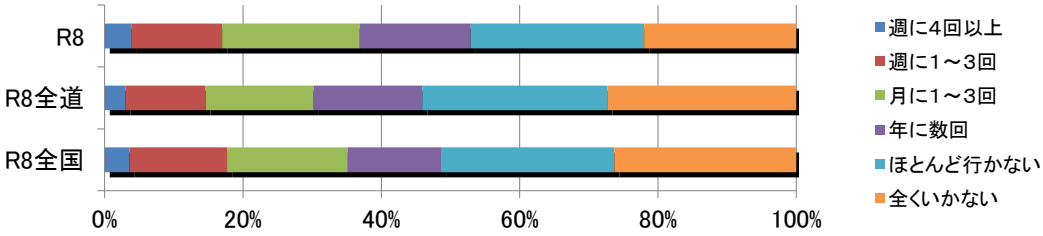
25 休み(土日等）の日の、1日当たりの学習時間。（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



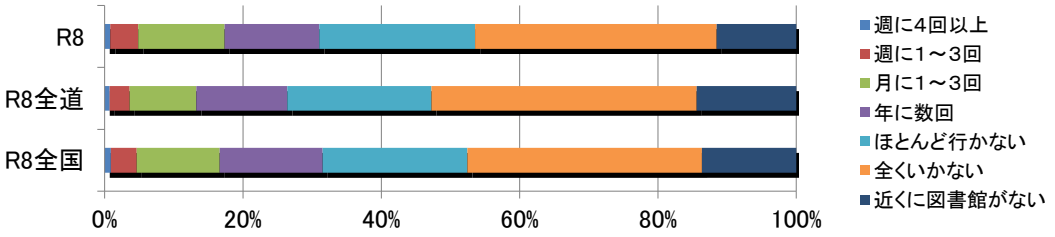
26 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



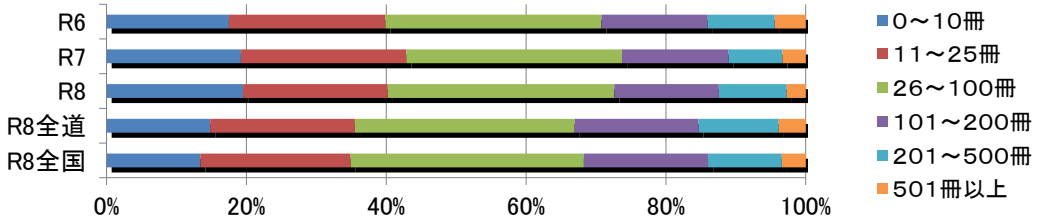
27 昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行くか。（新設問）



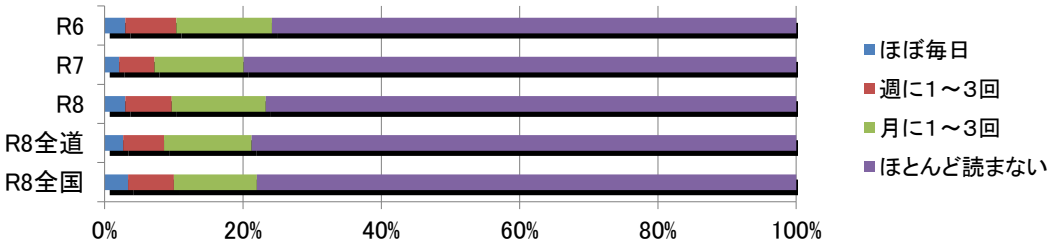
28 放課後や学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、地域の図書館（電子図書館を含む）にどれくらい行くか。（新設問）



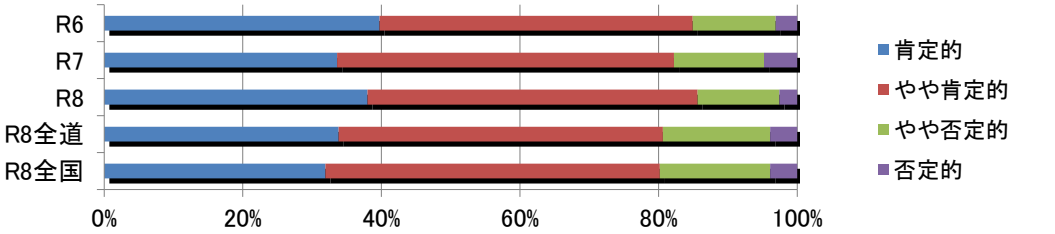
29 家にある本の冊数。（雑誌、新聞、教科書は除く）



30 新聞を読んでいる。



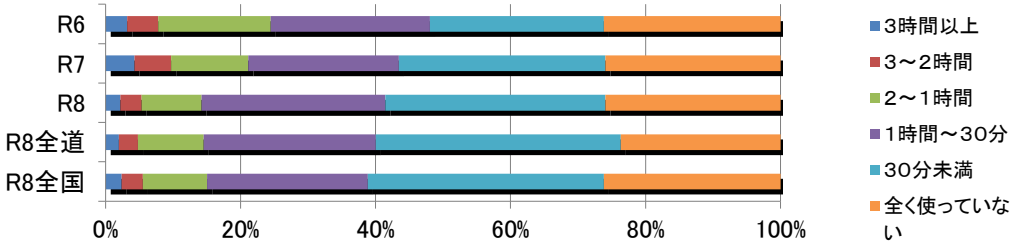
33 地域や社会をよくするために何かしてみたい。



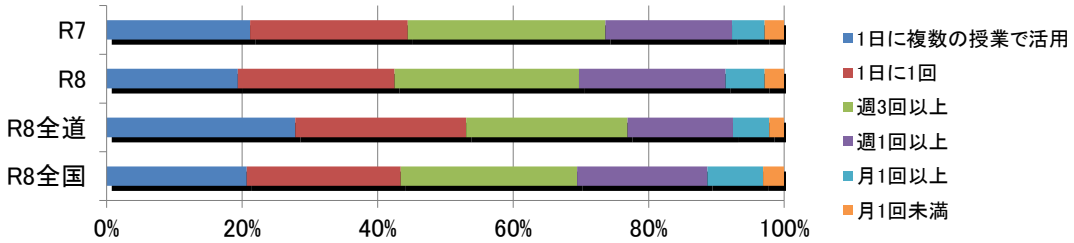
ICTの活用

【考察】 「PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する」「インターネットを使って情報を収集することができる」に対して肯定的な回答をした児童の割合が令和７年度より大きく増加するとともに全国平均を上回っている。授業や日常生活の中で、ICTを効果的に活用する場面が増えたことがうかがえる。今後も、学習のねらいを達成するための一つの手立てとして、児童が目的に応じてICT機器を効果的に活用できるような学習環境の整備、指導方法の工夫が必要である。

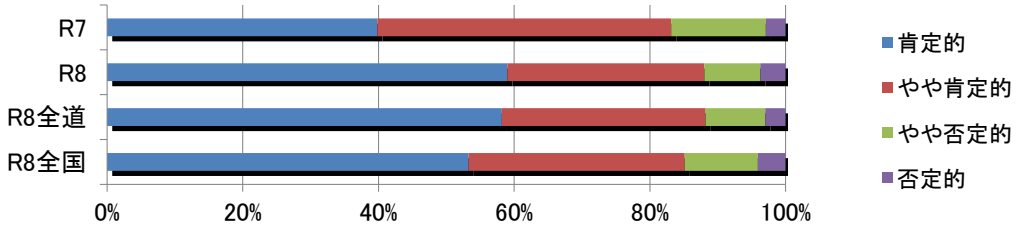
24 普段（月～金）、1日にPCやタブレット等のICT機器を勉強のために使用する時間。



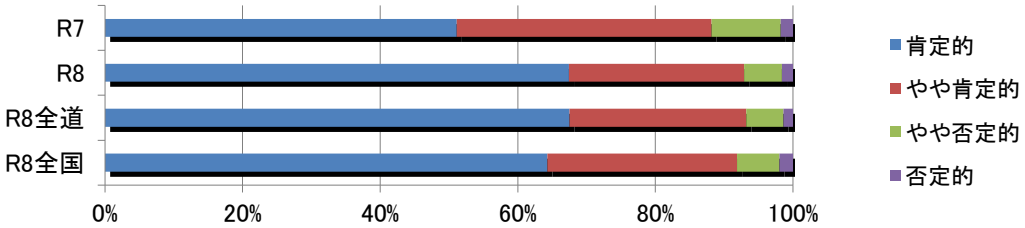
35 5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用した割合。



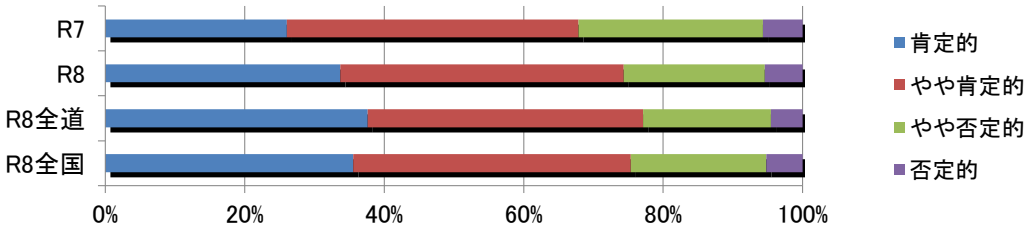
36[1] PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる。



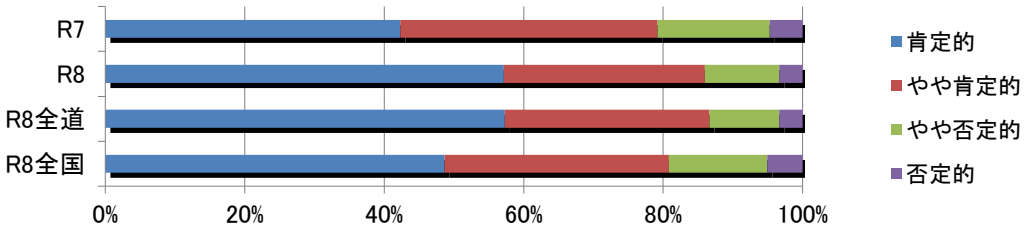
36[2] インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる。



36[3] PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる。



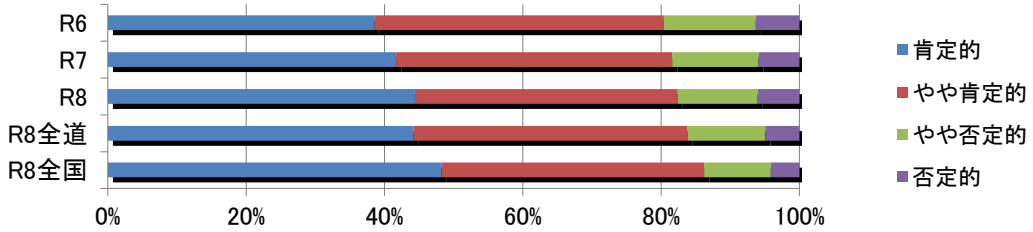
36[4] PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。



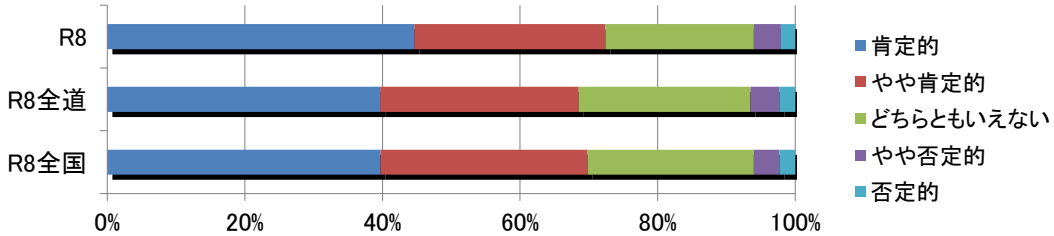
学校生活

【考察】 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回るとともに、いずれも９割程の高い結果となっている。学校生活を通して、他者と協働しながら学びを深める教育活動が展開されていることがうかがえる。今後も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を進め、児童の資質・能力の向上に寄与することが求められる。

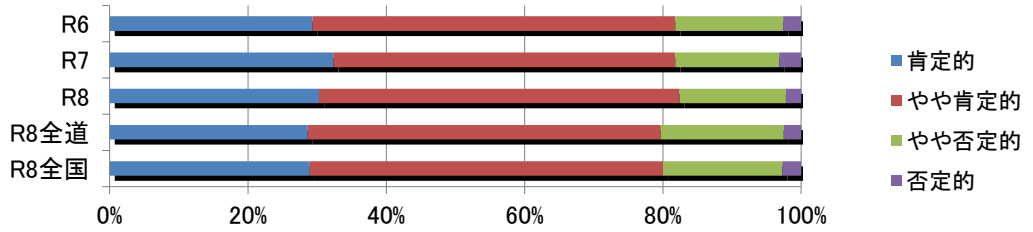
15 学校に行くのは楽しい。



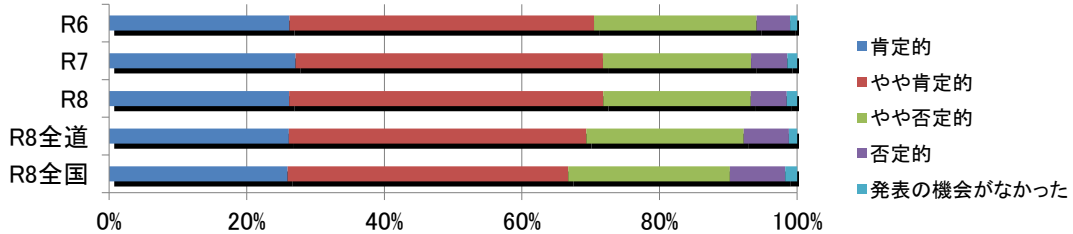
20 学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。（新設問）



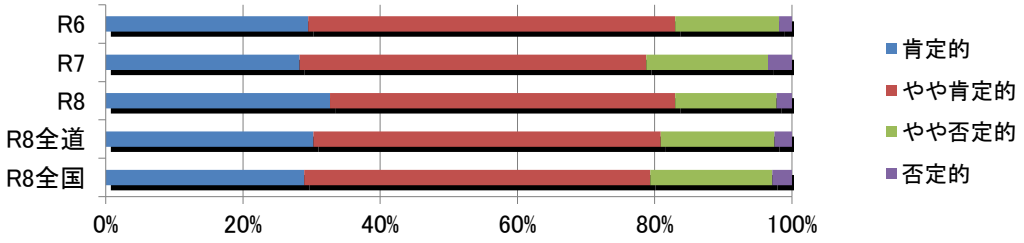
22 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。



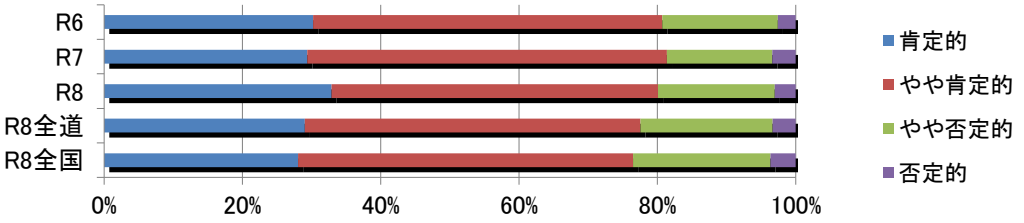
38 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



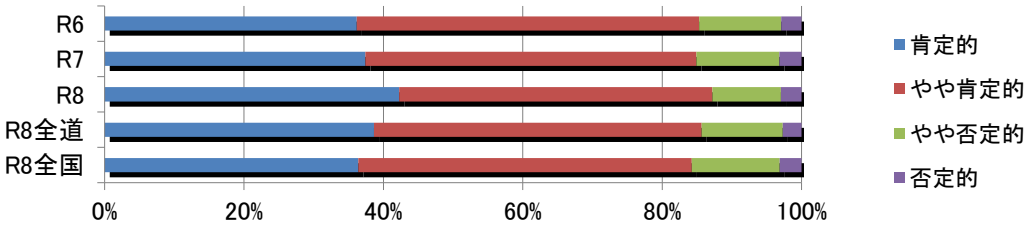
39 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



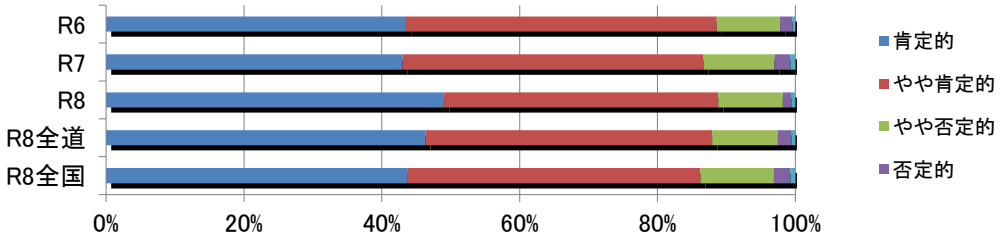
40 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。



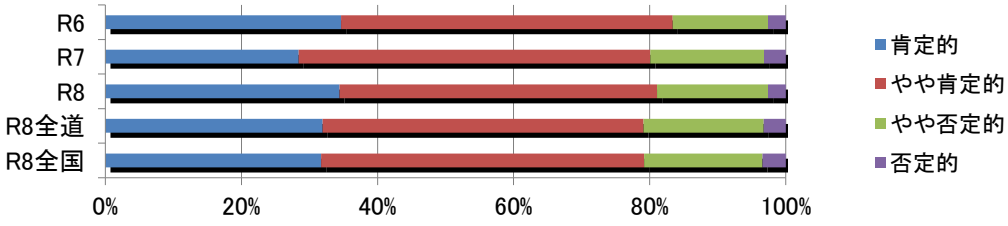
41 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。



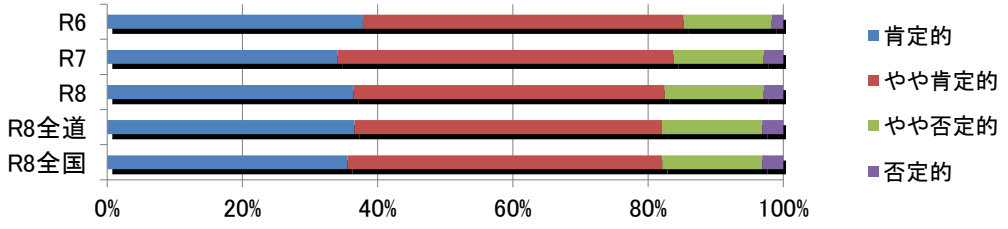
42 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。



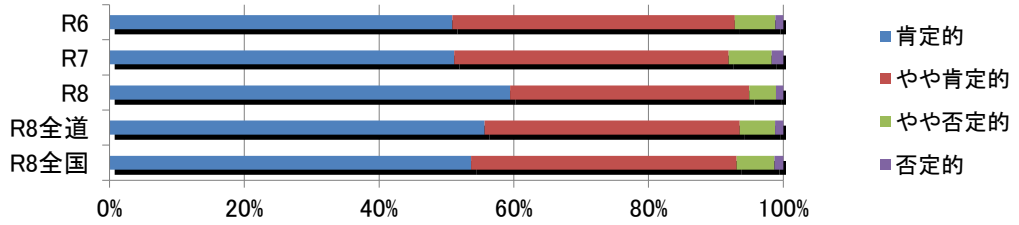
43 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。



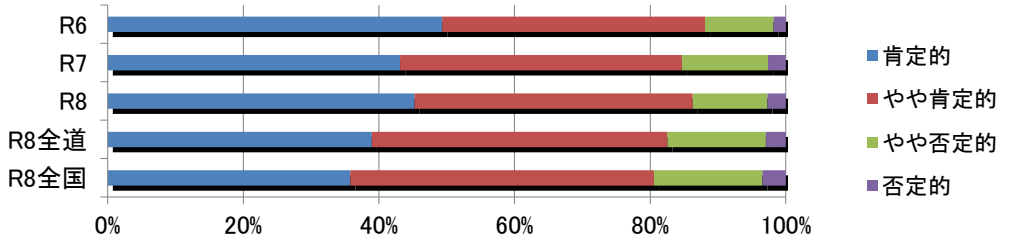
44 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。



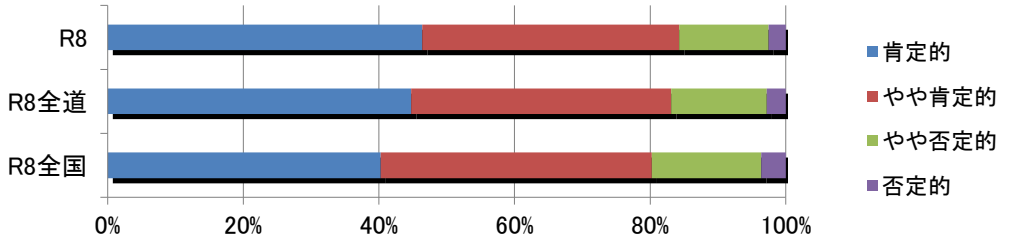
46 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。



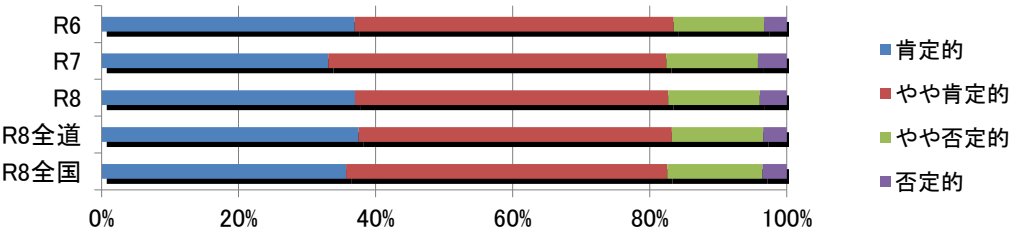
47 総合的な学習の時間では、自分で課題を立て、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



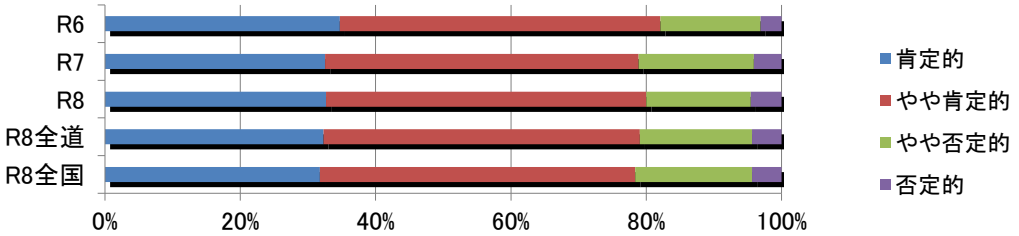
48 総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている。（新設問）



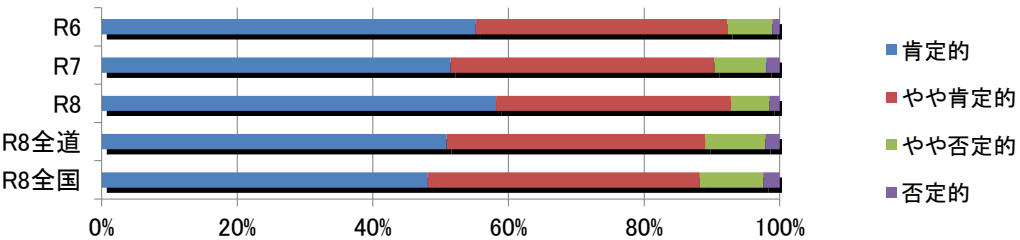
49 学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。



50 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



51 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。



令和8年度全国学力・学習状況調査生徒質問（中学3年生徒）調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

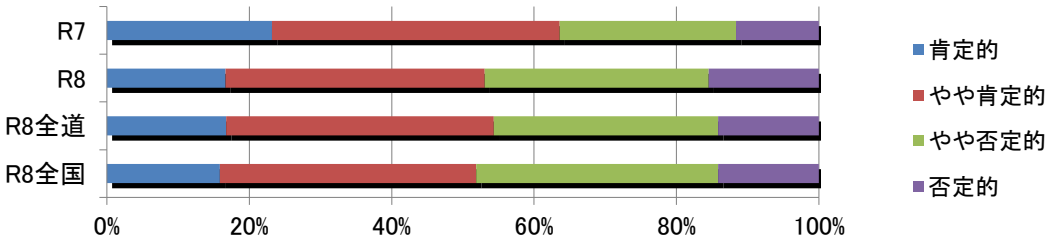
中学3年生徒

①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

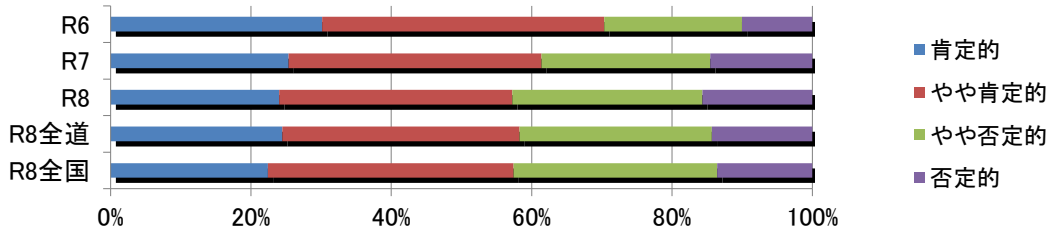
学習に対する興味・関心等（国語）

【考察】 ほぼすべての設問において、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均と同程度の結果となっている。「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の設問では、肯定的な回答を示した生徒が９割を超えている。このことから、多くの生徒が国語を学ぶことに対して必要感や価値を見出していることがうかがえる。今後も、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業改善をさらに進め、生徒の資質・能力の育成を図ることが求められる。

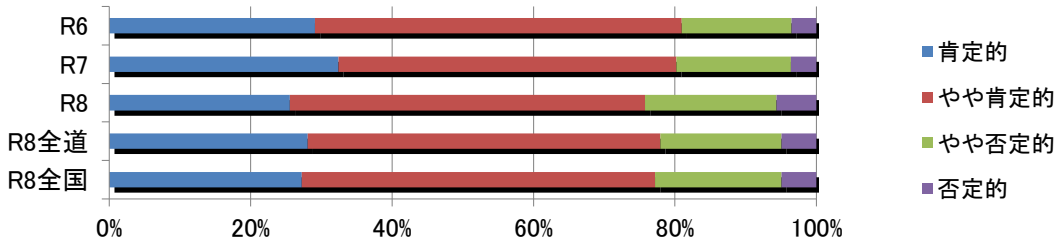
52 国語の勉強は得意。



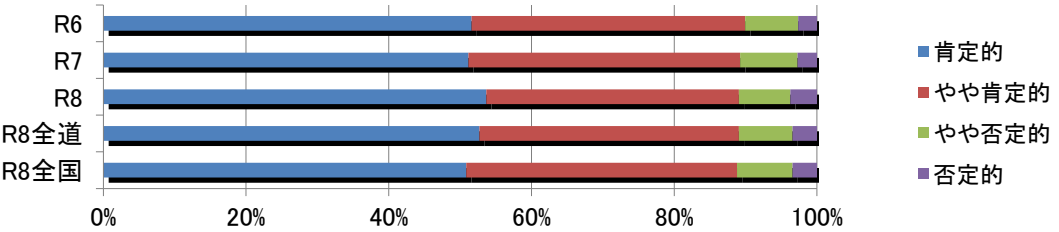
53 国語の勉強は好き。



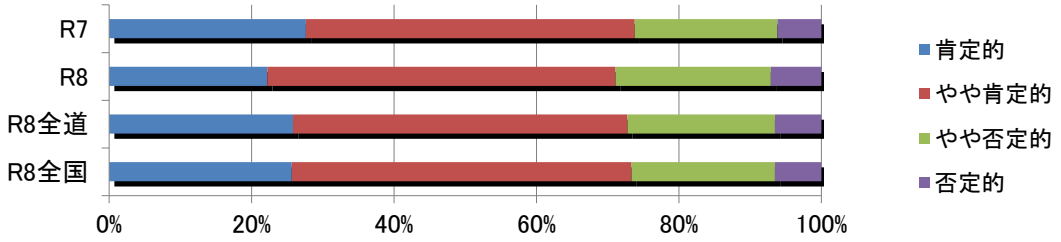
54 国語の授業の内容はよく分かる。



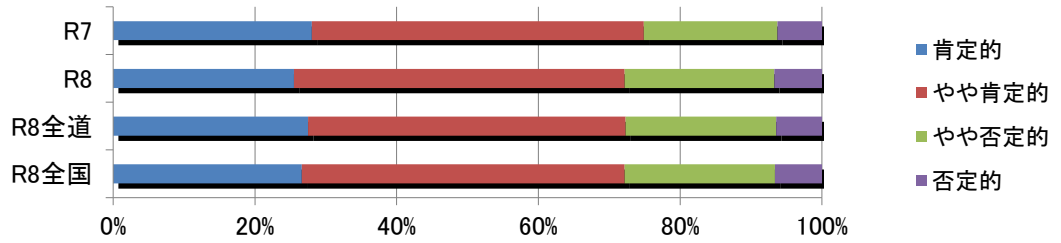
55 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



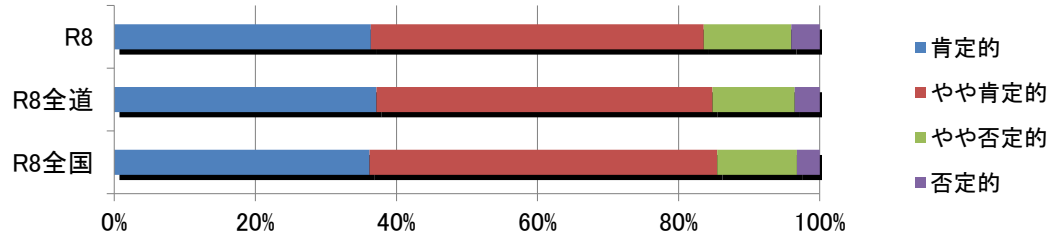
56 国語の授業で、先生は、自分の良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる。



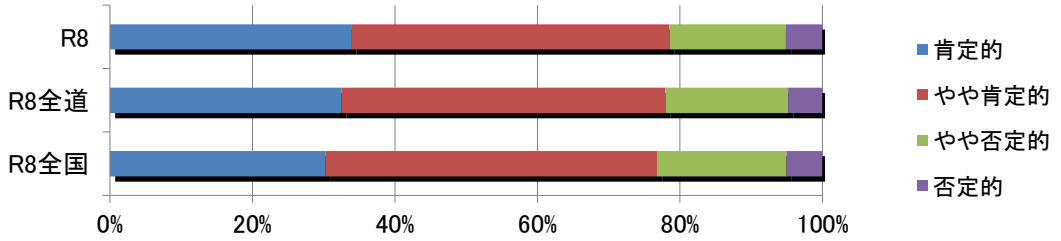
57 国語の授業で、先生は、学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる。



58 国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。（新設問）



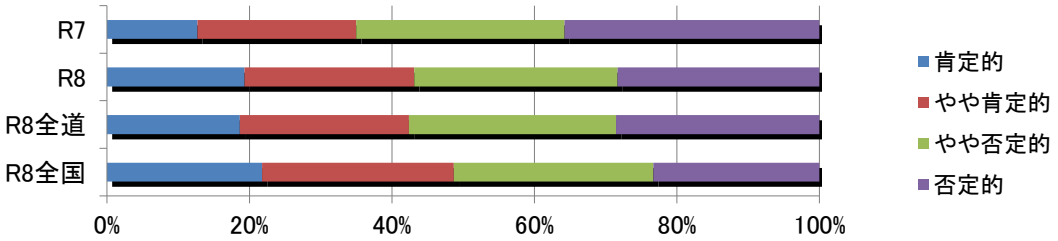
59 国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。（新設問）



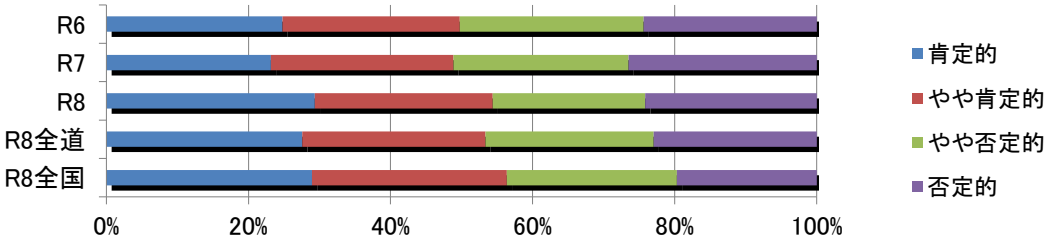
学習に対する興味・関心等（数学）

【考察】 すべての設問において、過去の回答状況より肯定的に回答した生徒の割合が増加傾向にある。中でも、「数学の勉強は得意」「数学の勉強は好き」「数学の授業の内容はよく分かる」の設問では全国平均との差が大きく縮まっている。これらの結果から、本市における授業改善策の取組の浸透や、各学校での授業改善が進んできたことがうかがえる。今後も、生徒が数学を学ぶ必要感をもち、主体的に学びながら資質・能力を高められるよう引き続き指導方法の工夫・改善を進めていくことが必要である。

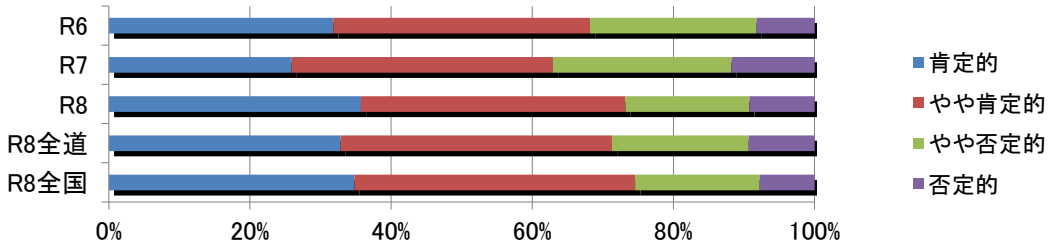
60 数学の勉強は得意。



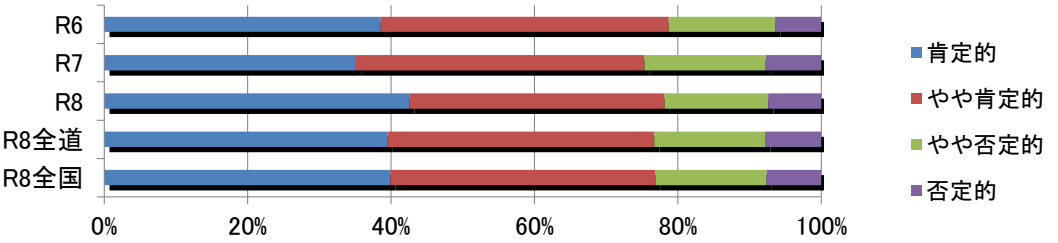
61 数学の勉強は好き。



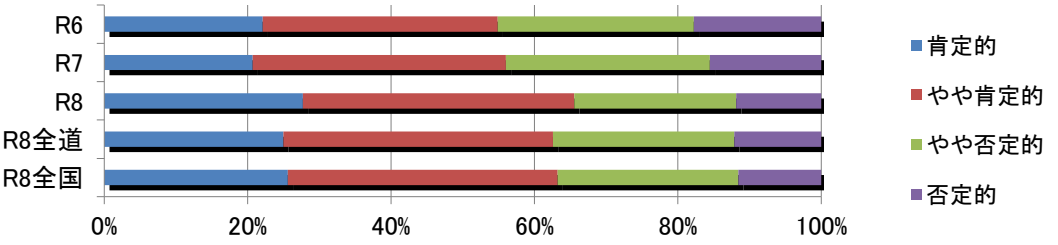
62 数学の授業の内容はよく分かる。



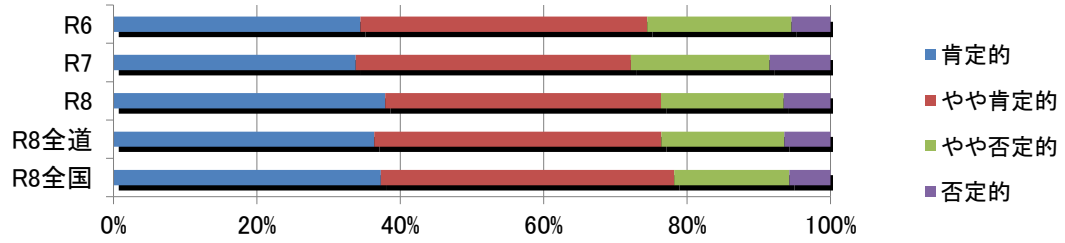
63 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



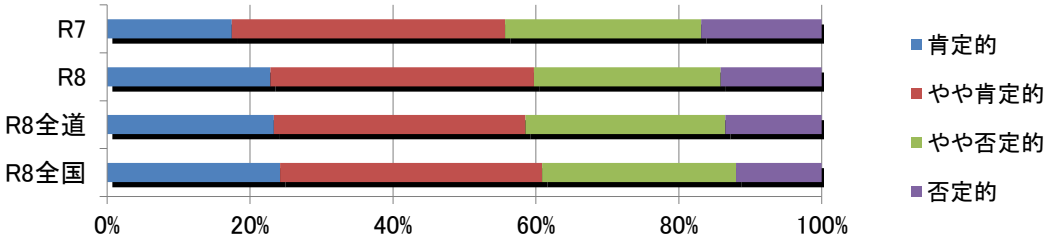
64 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている。



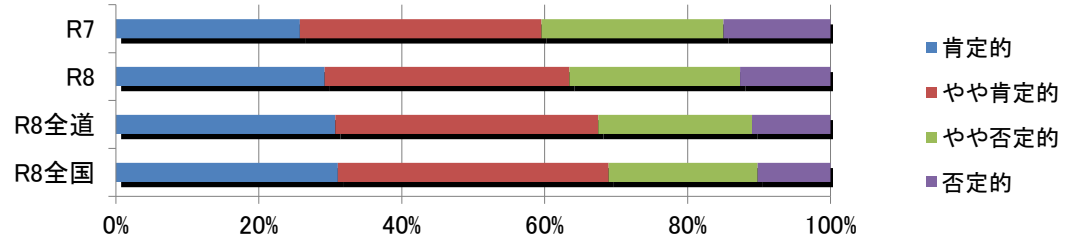
65 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。



66 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。



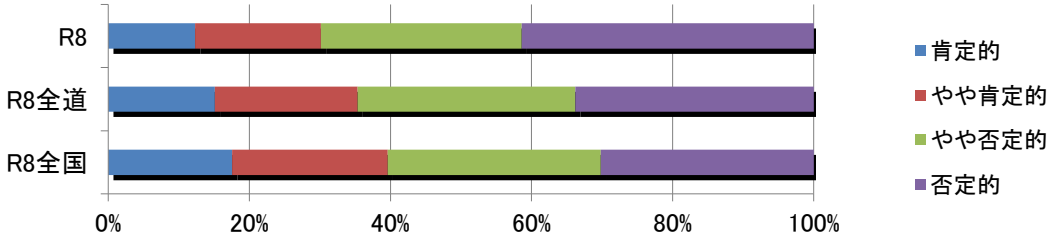
67 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる。



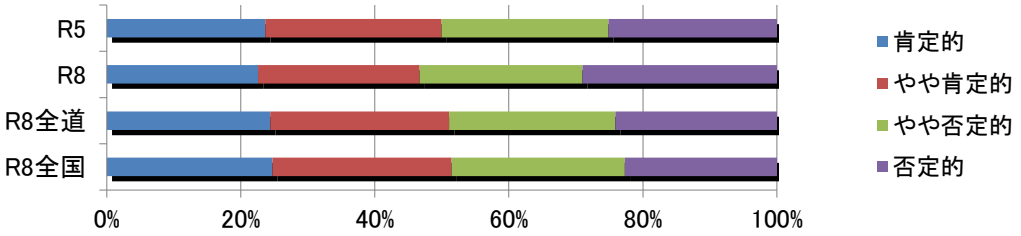
学習に対する興味・関心等（英語）

【考察】 「１・２年生のときの授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答をしたり意見を述べたりする活動が行われていた」の設問では、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を上回っている。一方で、「英語の勉強は得意」や「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」では、肯定的に回答した生徒の割合は全国平均を下回っている。これらのことから、知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力等の育成を目指して、単元の目標を明確にし、その達成のための具体的な手立てを位置づけた授業づくりを進めていくことが必要である。

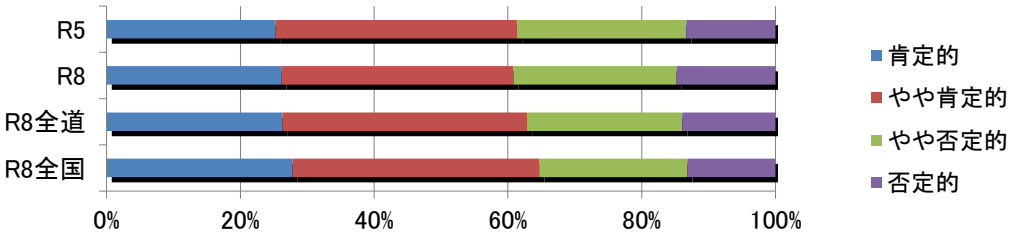
69 英語の勉強は得意。（新設問）



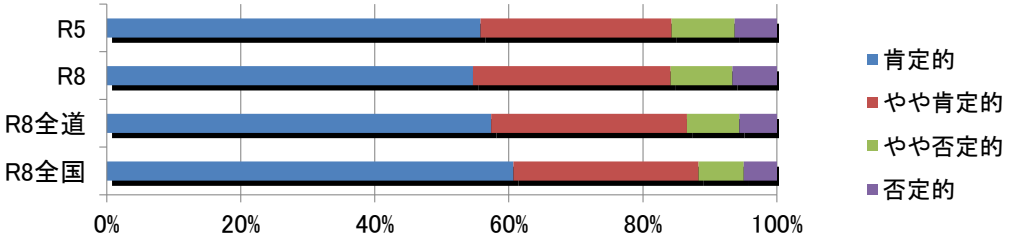
70 英語の勉強は好き。



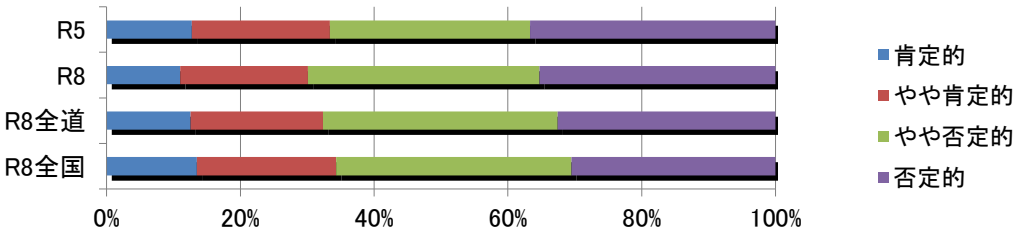
71 英語の授業の内容はよく分かる。



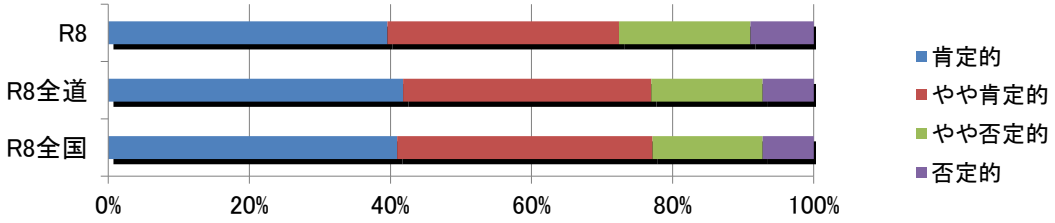
72 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



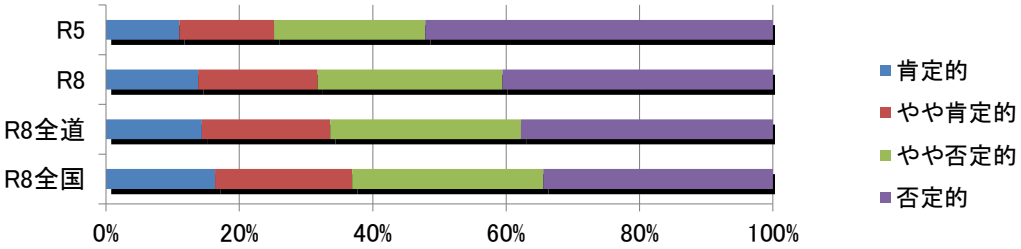
73 将来、積極的に英語を使う生活をしたり職業に就いたりしたい。



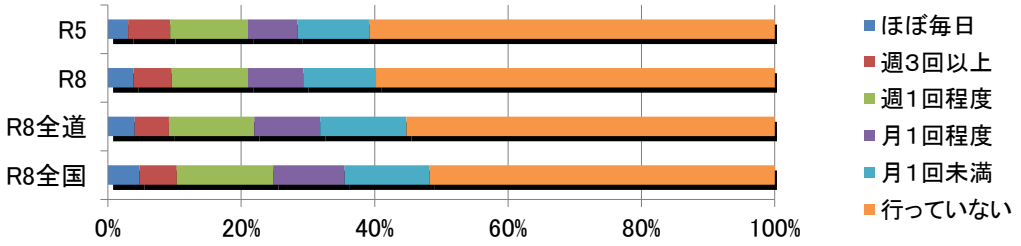
74 キーボード（フリック入力を含む）を使って英語を書くことができる。（新設問）



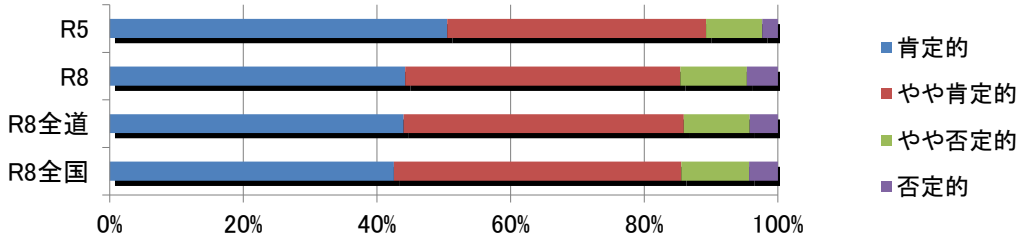
75 これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった。（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）



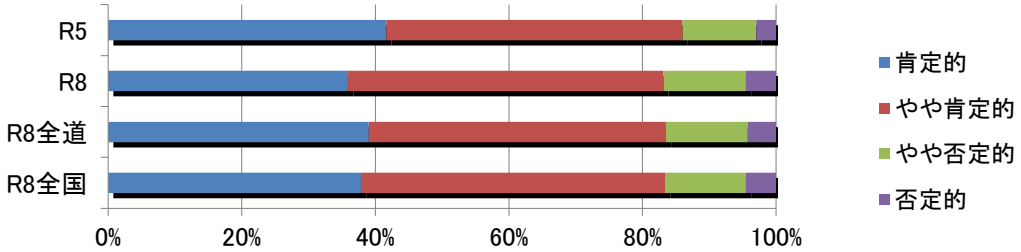
76 家庭学習の課題（宿題）として、ＩＣＴ機器を使用して、英語の音声を聞いたり、英語を話す練習をしている。



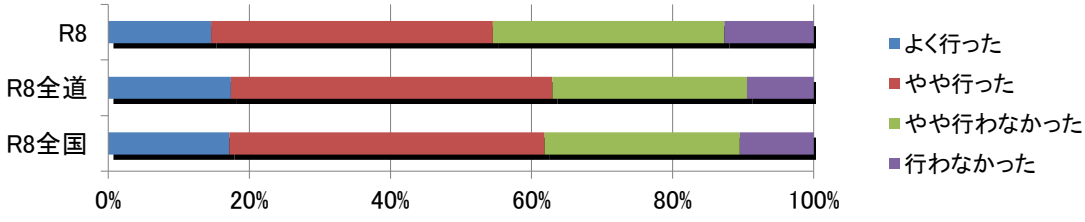
78 １・２年生のときの授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答をしたり意見を述べたりする活動が行われていた。



79 １・２年生のときの授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていた。



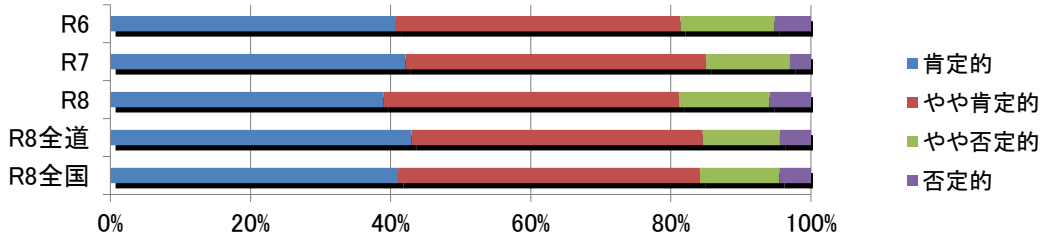
80 １・２年生のときの授業では、キーボードを使って英語を書く活動をどれくらい行ったか。（新設問）



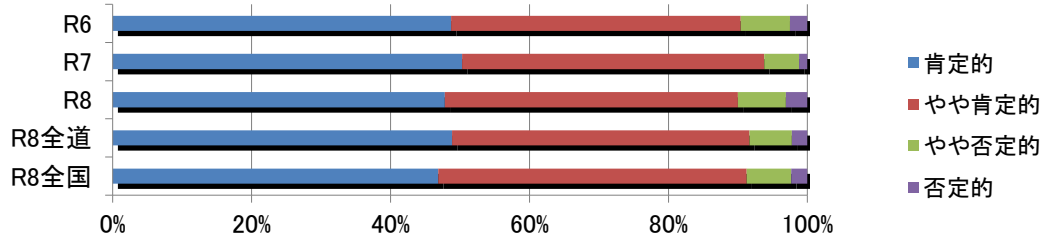
規範意識・自己有用感

【考察】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している生徒の割合が全国平均を上回っている。小学校と同様に学校の教育活動全体を通して道徳教育の充実に取り組んでいることや、「苫小牧市いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組が継続的に進められていることがうかがえる。また、「自分には、よいところがあると思う」「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」の設問では肯定的な回答をしている生徒の割合が８割を超えていることから自己有用感の高さがうかがえる。学校や家庭において、生徒一人一人を認め日常生活で励ます関わりが効果的であることがうかがえる。

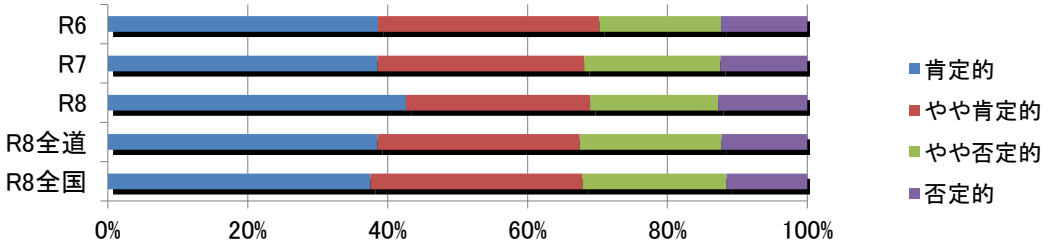
8 自分には、よいところがあると思う。



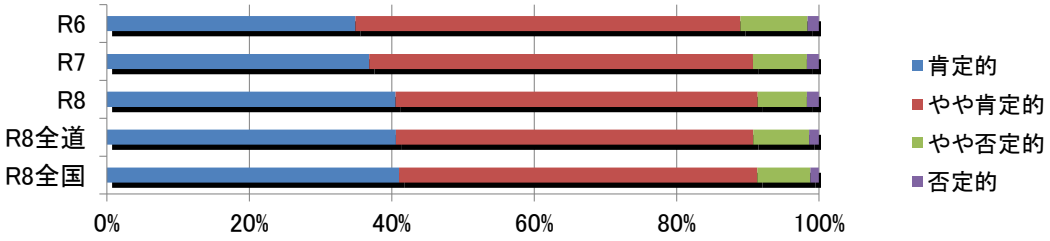
9 先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。



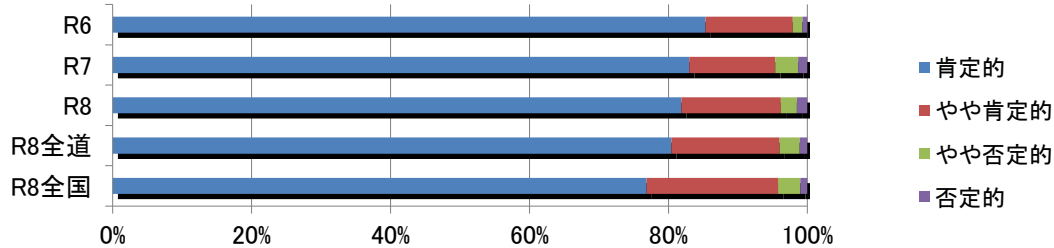
10 将来の夢や目標を持っている。



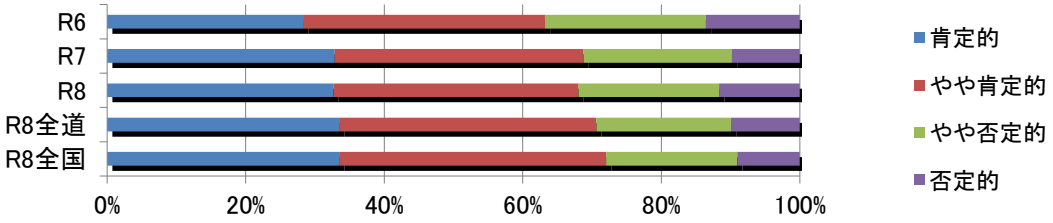
11 人が困っているときは、進んで助けている。



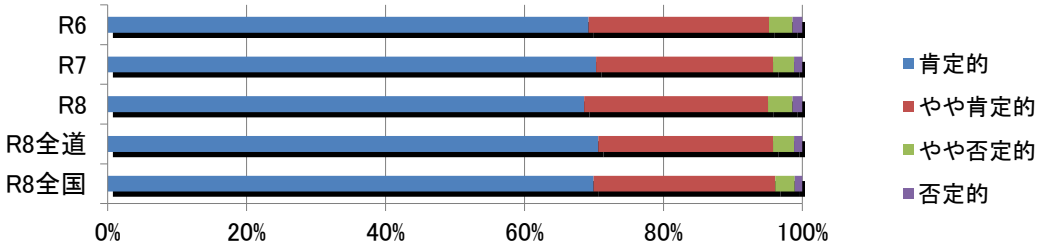
12 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



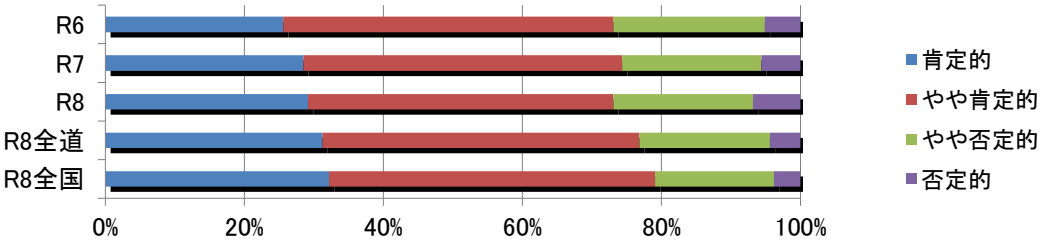
13 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



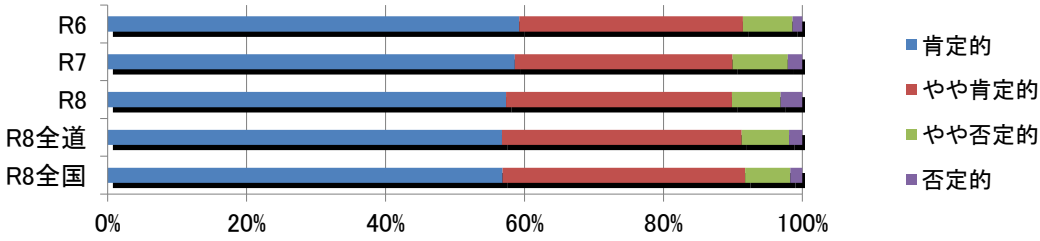
14 人の役に立つ人間になりたいと思う。



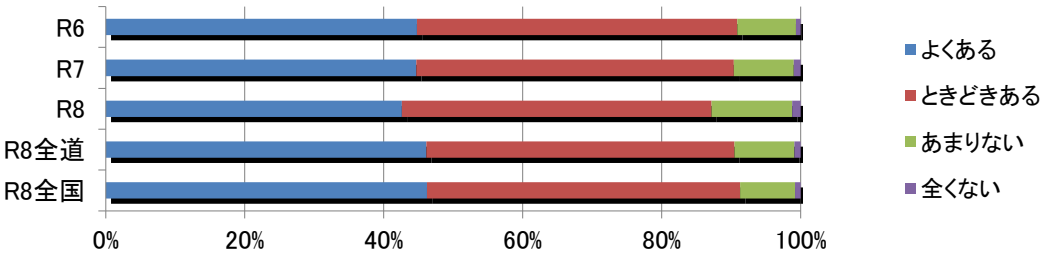
16 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。



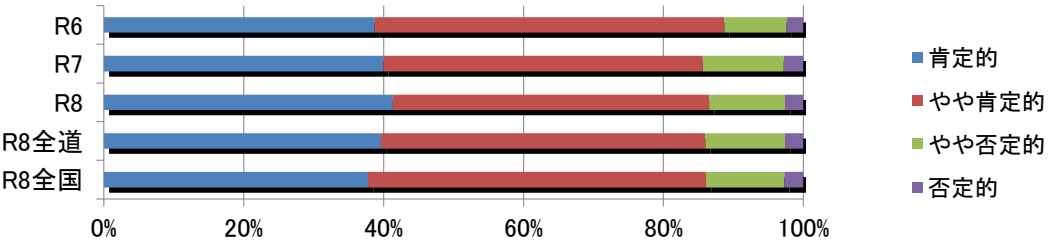
17 友達関係に満足している。



21 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。



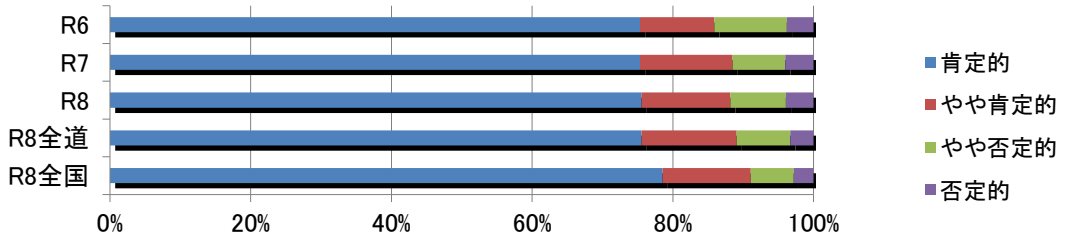
45 先生は、授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。



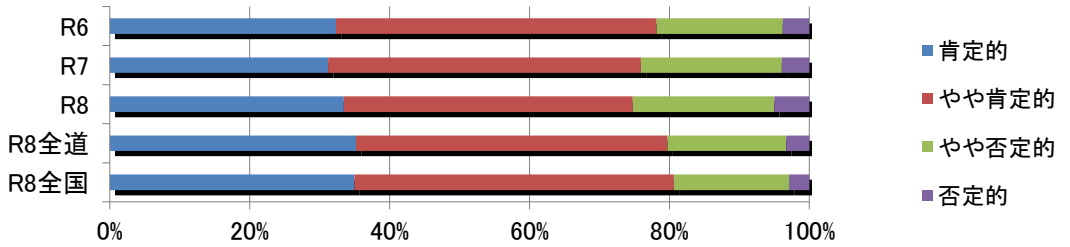
生活習慣・学習習慣・地域や社会への関心

【考察】 普段（月～金）の1日あたりのメディアの利用時間は、全国平均に比べて本市の生徒の方が利用時間が多い傾向にある。また、学校の授業時間以外での家庭での学習時間は全国平均に比べて短い傾向にある。生徒の適切な生活習慣や学習習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携を進めるとともに、本市における「新とまこまい学びの３カ条」に基づき、生徒が自主的に学びに向かう習慣を育む取組が進められるよう働きかける必要があるとうかがえる。

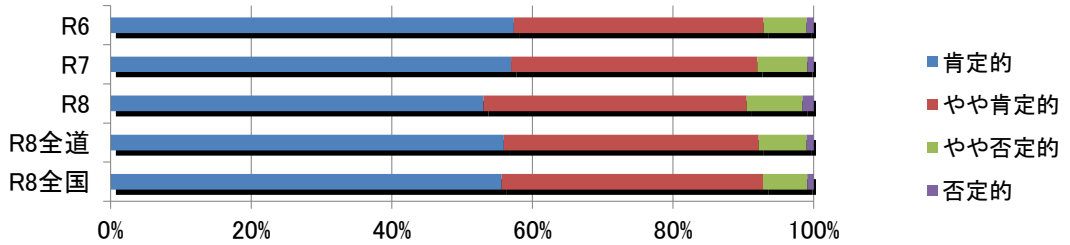
1 朝食を毎日食べている。



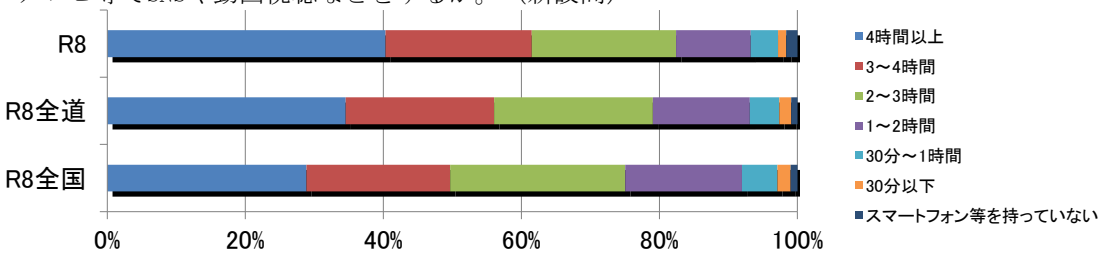
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



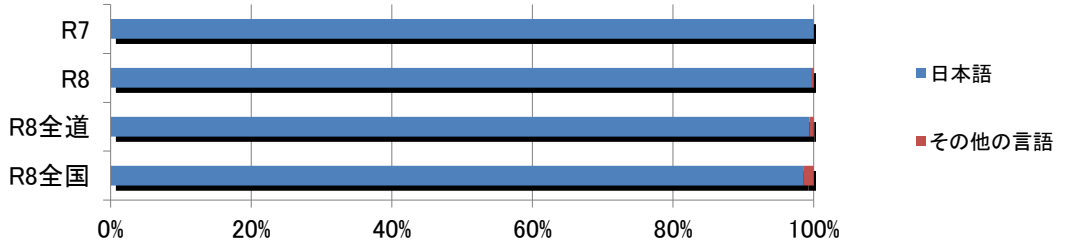
3 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



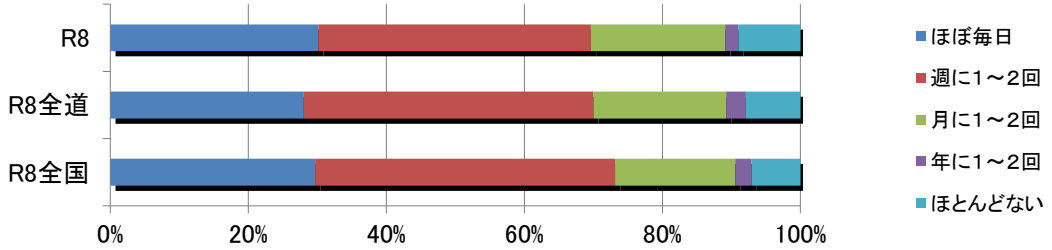
4 普段（月～金）、1日あたりどれくらい時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをするか。（新設問）



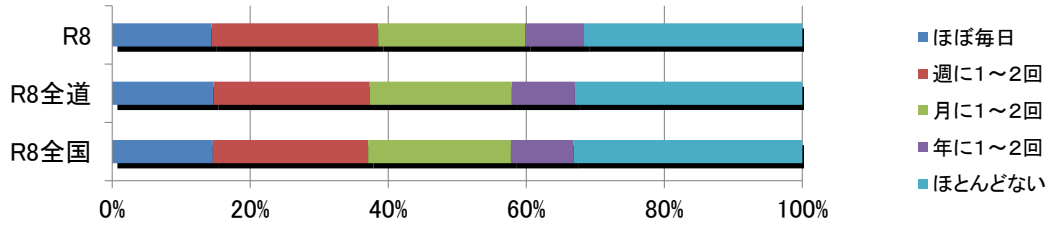
5 家で主に何語で話しているか。



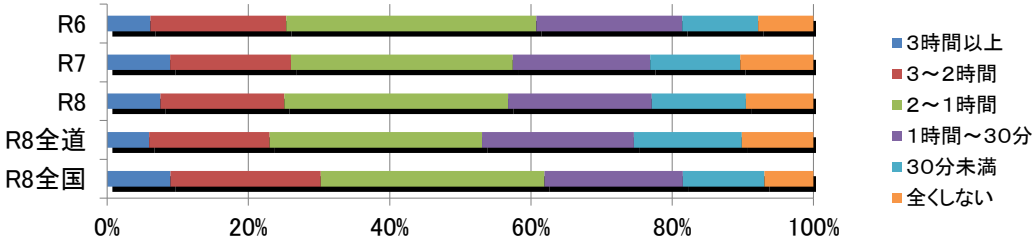
6 学校の勉強のことについて、親や家族とどれくらい話をするか。（新設問）



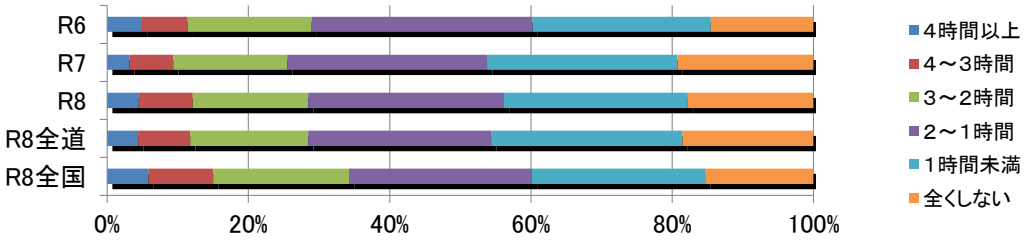
7 学校での悩みについて、親や家族とどれくらい話をするか。（新設問）



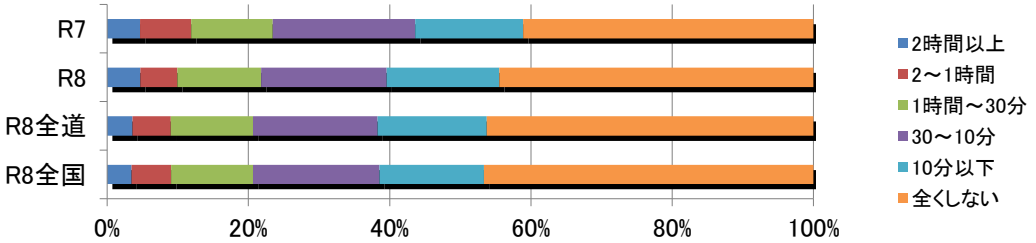
23 普段(月～金)、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



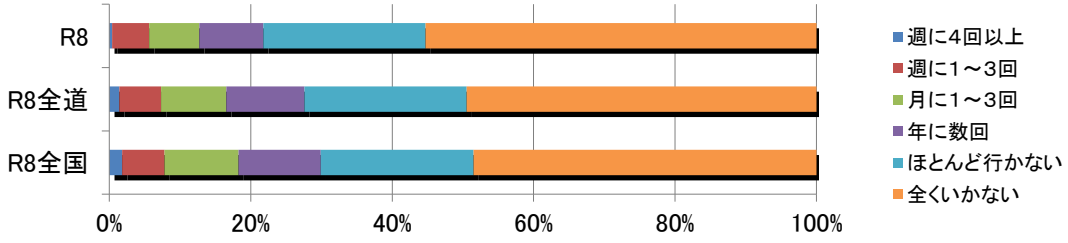
25 休み(土日等)の日の、1日当たりの学習時間。（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



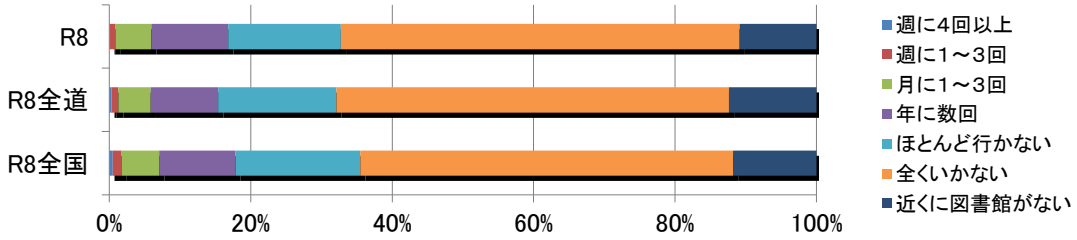
26 普段(月～金)、1日当たりの読書時間。（電子書籍は含む。教科書、参考書、漫画、雑誌は除く。）



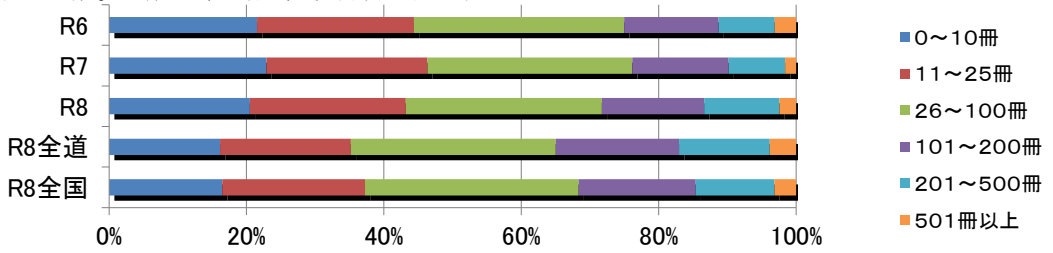
27 昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行くか。（新設問）



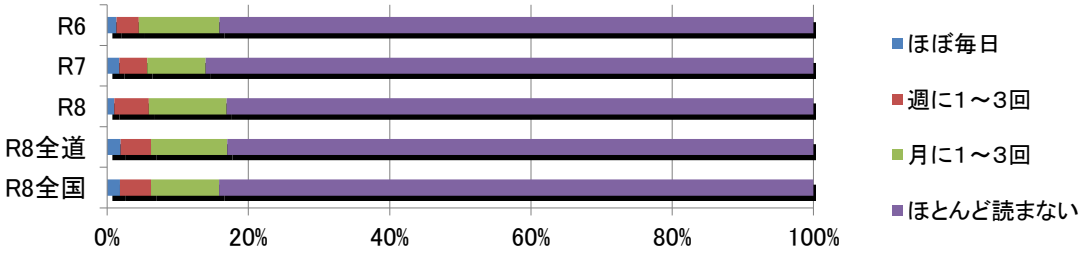
28 放課後や学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、地域の図書館（電子図書館を含む）にどれくらい行くか。（新設問）



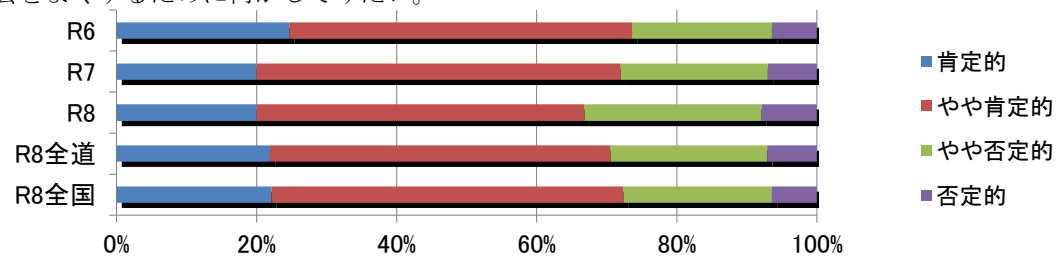
29 家にある本の冊数。（雑誌、新聞、教科書は除く）



30 新聞を読んでいる。



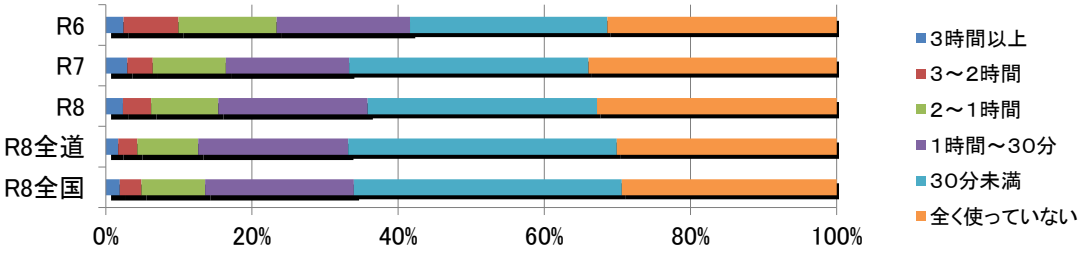
33 地域や社会をよくするために何かしてみたい。



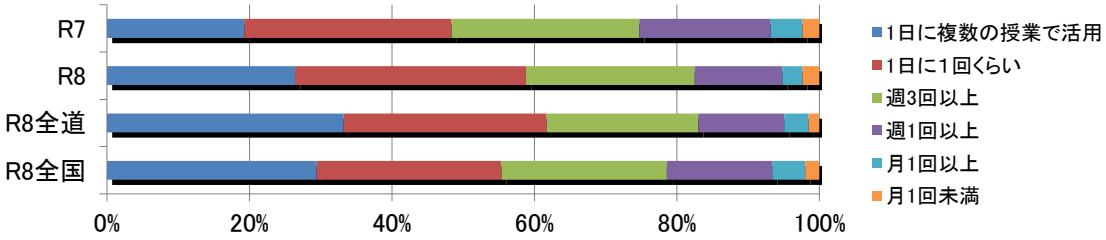
ＩＣＴの活用

【考察】 授業の中でICT機器を使用した割合が、令和７年度に比べて増加している。また、ICT機器での文章の作成やインターネットを使った情報の収集、発表スライド等のプレゼンテーションの作成といった具体的な活用ができると肯定的な回答をした生徒の割合も大幅に増加している。授業の目標を達成するために、ICTを意図的・計画的に学習活動に位置付ける等、指導方法の工夫が図られたことで生徒のICTを活用する技能が着実に高まってきていることがうかがえる。

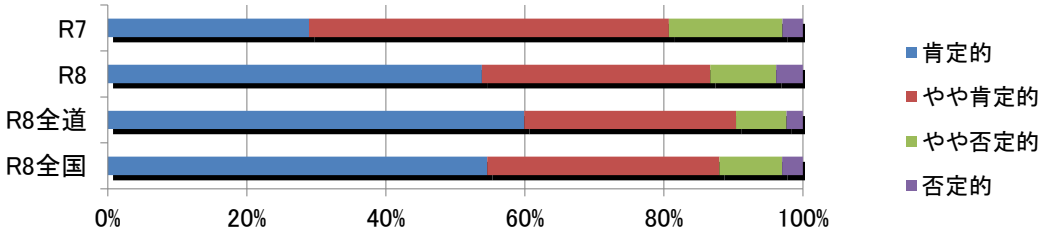
24 普段（月～金）、1日にスマホやコンピュータ等のICT機器を勉強のために使用する時間。



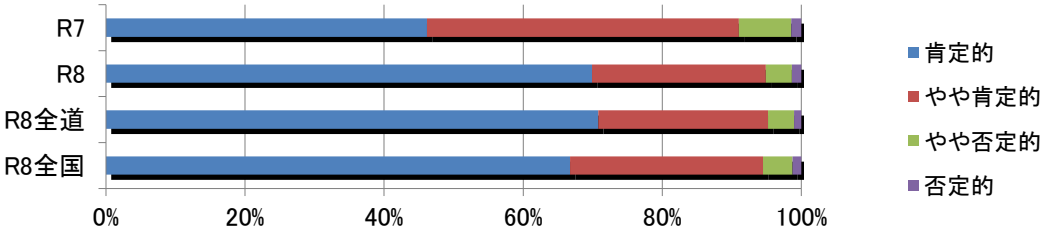
35 1、2年生のときに受けた授業でＰＣ・タブレットなどのICT機器を使用した割合。



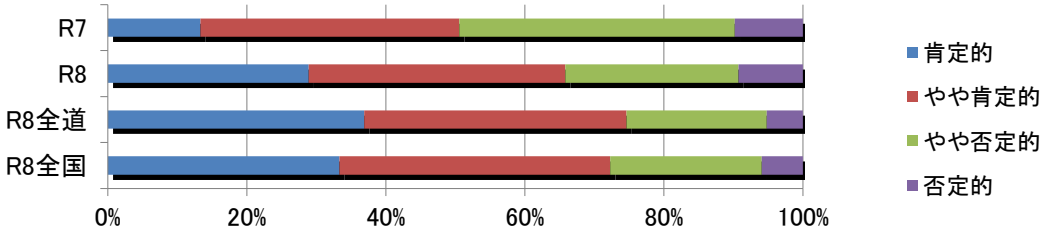
36[1] PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる。



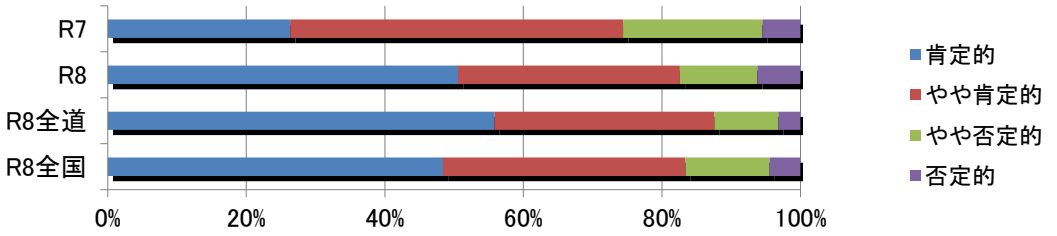
36[2] インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる。



36[3] PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる。



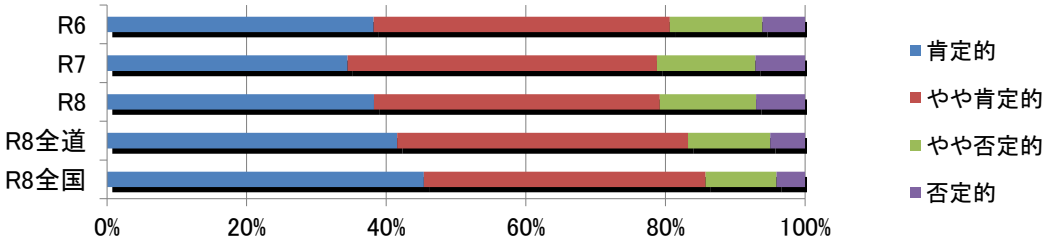
36[4] PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。



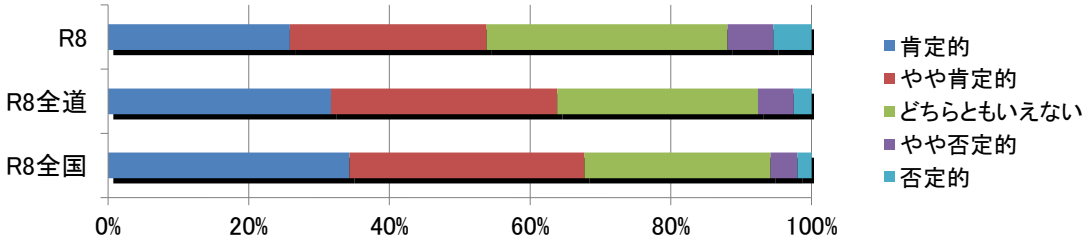
学校生活

【考察】「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の設問では肯定的な回答をした生徒の割合が令和６年度より増加傾向にある。また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」では９割を超える生徒が肯定的な回答をしている。これらの結果は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業づくりが進められている成果だとうかがえる。

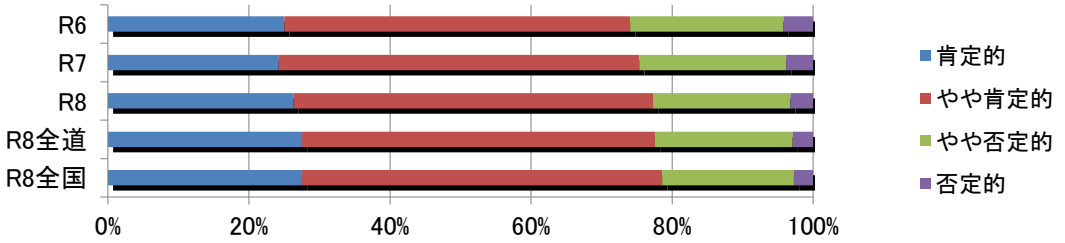
15 学校に行くのは楽しい。



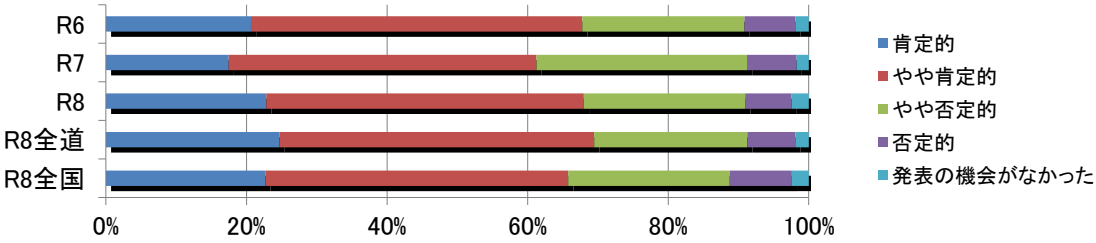
20 学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。（新設問）



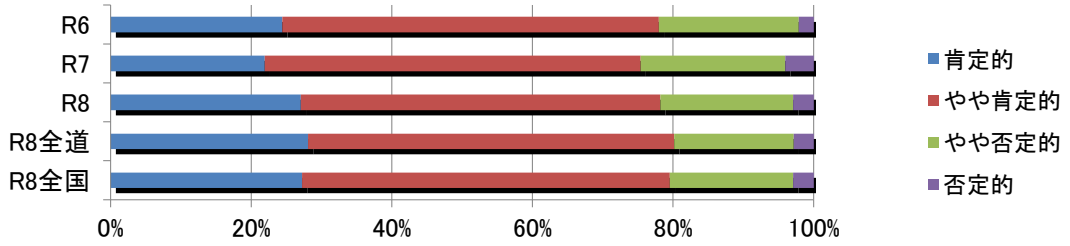
22 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。



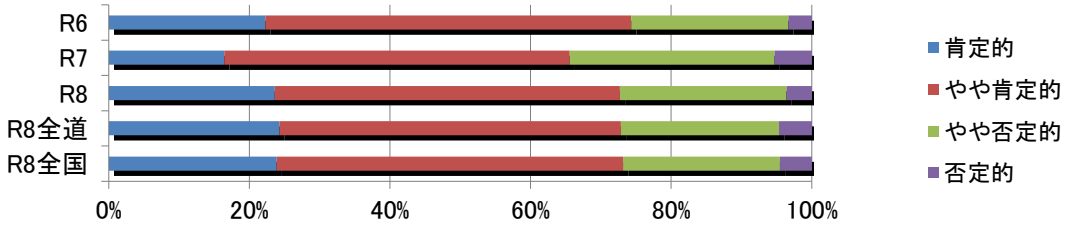
38 1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



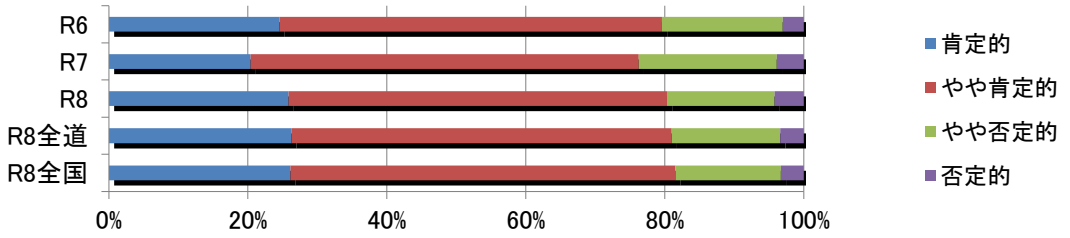
39 1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



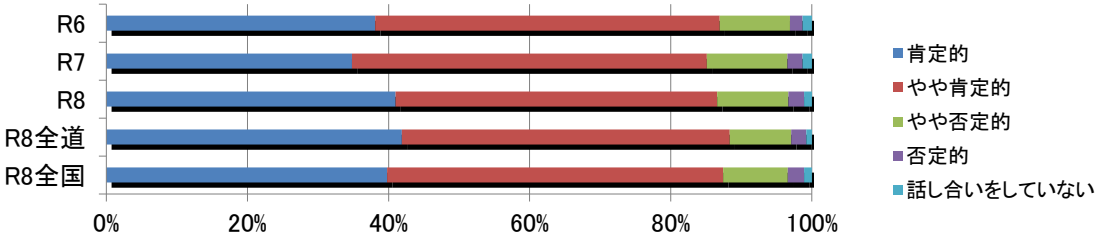
40 1、2年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。



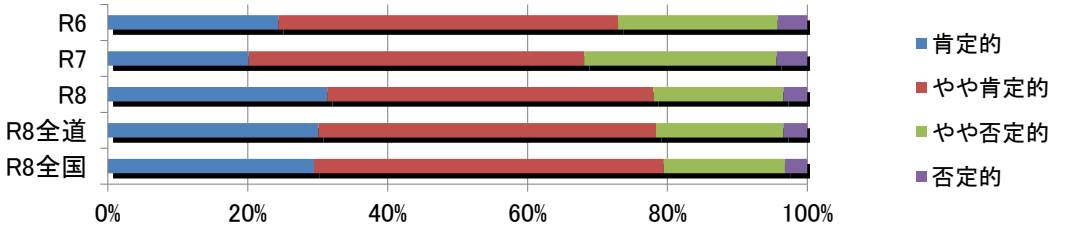
41 1、2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。



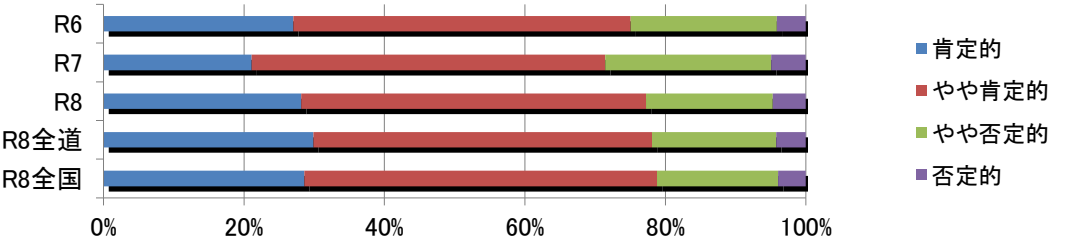
42 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。



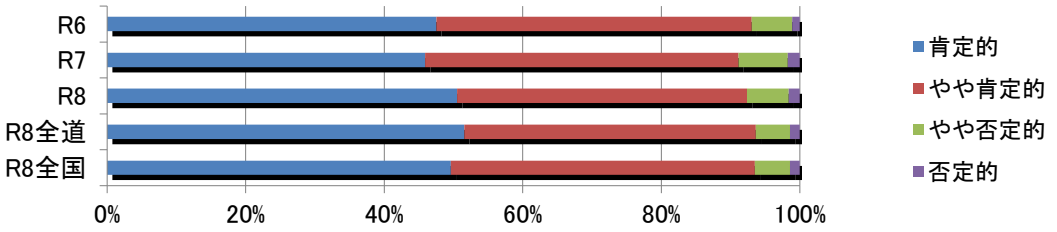
43 分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。



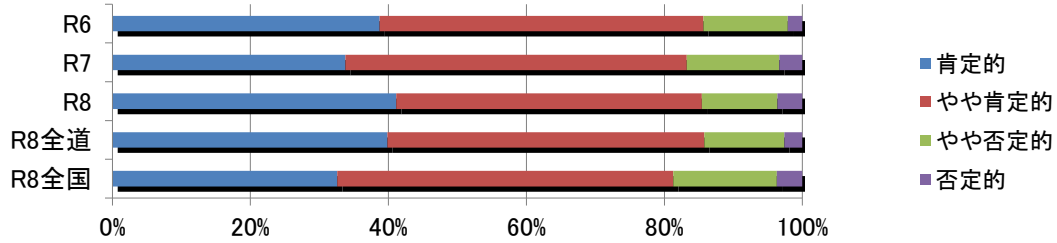
44 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。



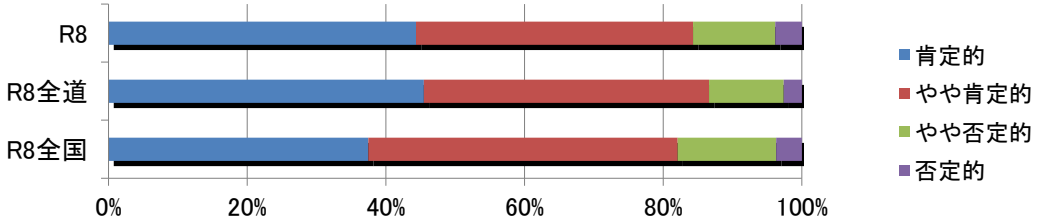
46 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。



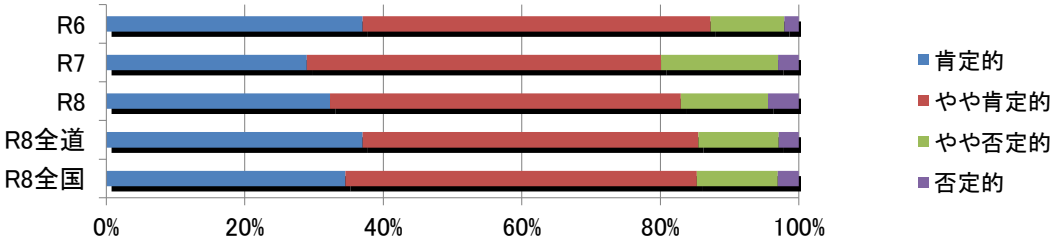
47 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



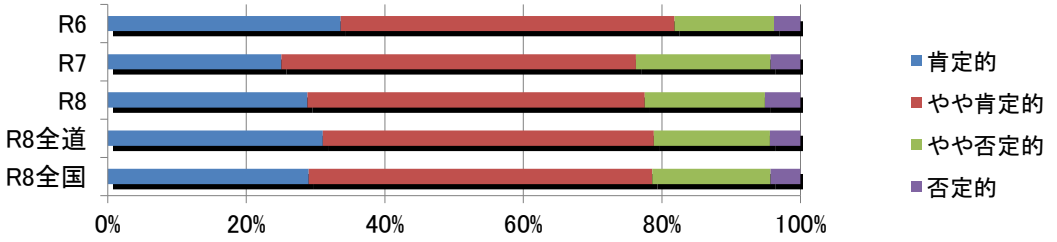
48 総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている。（新設問）



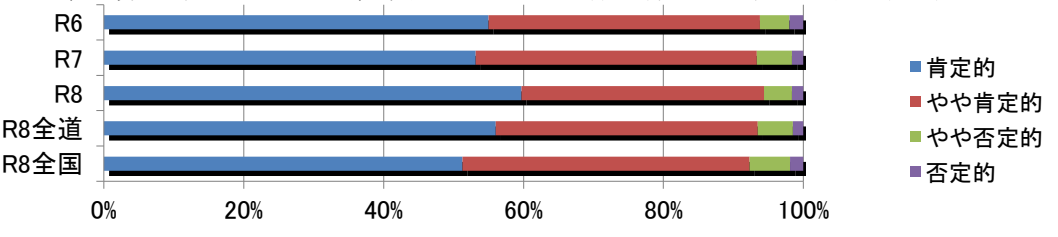
49 学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。



50 学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



51 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。



令和８年度全国学力・学習状況調査学校質問調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

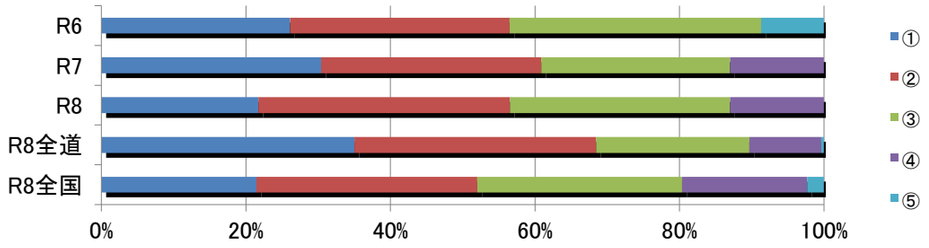
学力向上に向けた取組

〈ICTの活用〉

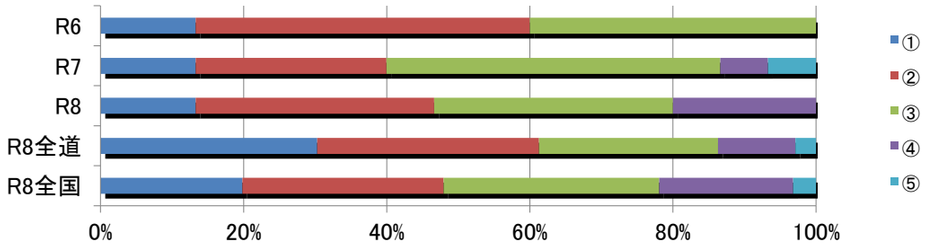
◆ 児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか

①ほぼ毎日　②週３回以上　③週１回以上　④月１回以上　⑤月１回未満

【小学校】



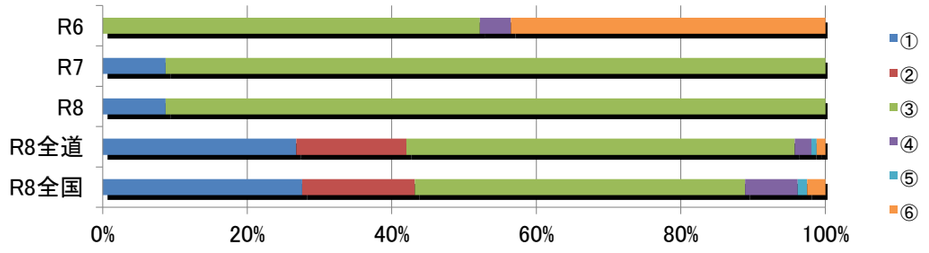
【中学校】



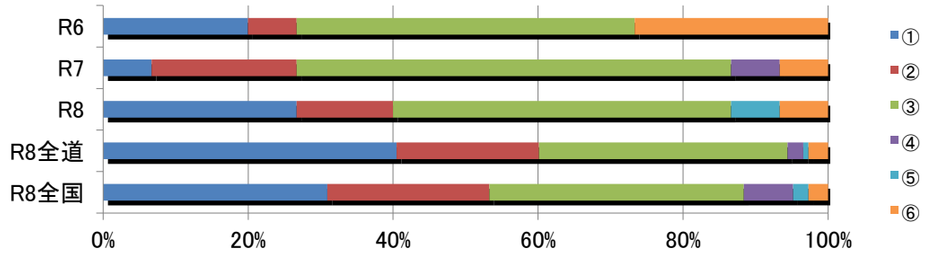
◆ 児童・生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

①毎日持ち帰って、毎日利用　②毎日持ち帰って、時々利用　③時々持ち帰って、時々利用
④持ち帰らせていない　⑤持ち帰ってはいけない　⑥臨時休業のみ

【小学校】



【中学校】



【考察】

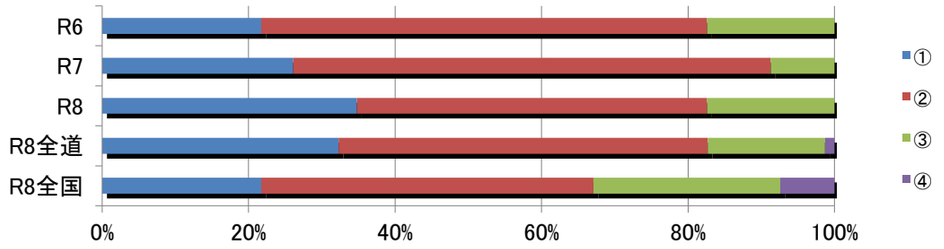
「児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の設問では、小・中学校ともに「週１回以上活用している」と回答した児童生徒の割合が全国平均を上回っている。また、「どの程度家庭で利用できるようにしていますか」の設問では、小学校では全校においてタブレットの持ち帰りによる活用が行われており、中学校においては毎日持ち帰って毎日利用していると回答した学校の割合が全国平均と同程度となっている。今後も授業におけるICT機器の効果的な活用や家庭学習での利用など、目的に応じてICT機器を活用する取組を推進していくことが求められる。

〈小中連携の取組〉

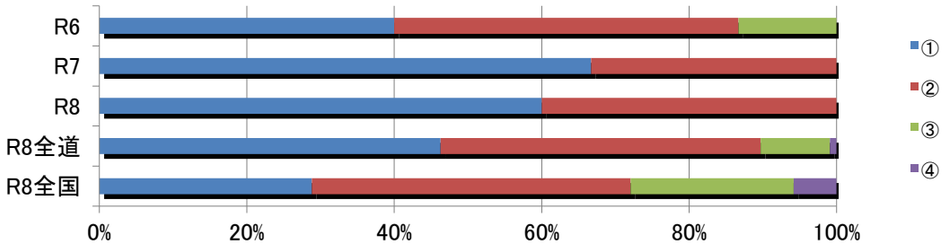
◆ 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った。

①よく行った　②どちらかといえば行った　③あまり行わなかった　④全く行わなかった

【小学校】



【中学校】



【考察】

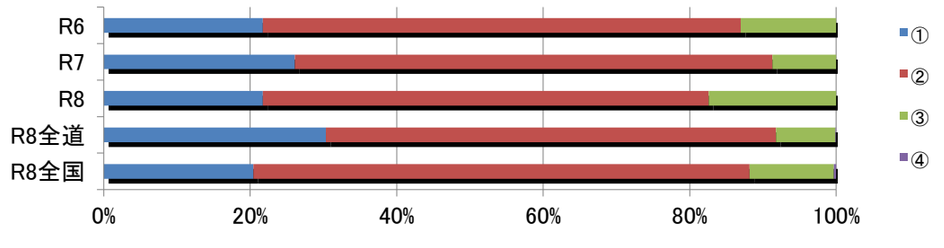
「近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った」について「よく行った」と回答した割合が小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回るとともに、中学校では全校において肯定的な回答となっている。このことから、「Ｔｏｍａｋｏｍａｉ　ＡＩＩ－9」に基づいた小・中学校の連携が継続されており、義務教育9年間を見通した系統的な指導による教育が推進されているとうかがえる。今後も、各エリアにおいて目指す児童生徒像や重点課題を共有し、「生きてはたらく力を身に付けた15歳の苫小牧っ子」の育成に向けた取組を一層推進していくことが求められる。

〈授業改善〉

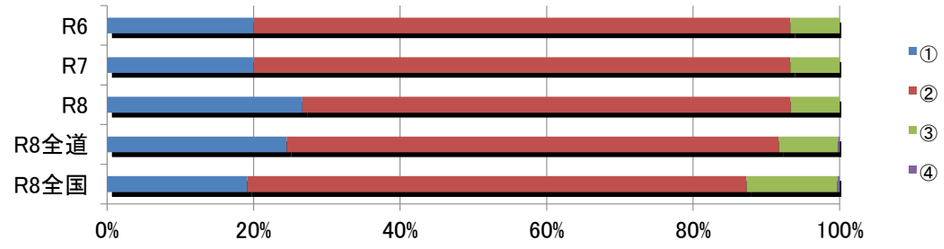
◆ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。

①そう思う　②どちらかといえば、そう思う　③どちらかといえば、そう思わない　④そう思わない

【小学校】



【中学校】



【考察】

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」の設問では、肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに８割を超え、中学校では全国平均を上回っている。このことから、本市の授業改善策である「４つの共通取組場面」の意図的な設定により、児童生徒が学習内容を見通したり、自分にとって最適な学び方を決定したりすることで主体的な学びにつながっていることがうかがえる。今後も、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう取組を進めていくことが求められる。